

目 次

I	研究の概要	1
II	研究計画	3
1	全体計画	3
2	各協力校の計画	4
(1)	鹿角市立十和田小学校	4
(2)	大館市立山田小学校	6
(3)	由利本荘市立鶴舞小学校	8
(4)	大仙市立東大曲小学校	10
(5)	横手市立栄小学校	12
(6)	美郷町立六郷東根小学校	14
(7)	能代市立東雲中学校	16
(8)	男鹿市立男鹿南中学校	17
(9)	湯沢市立湯沢南中学校	19
III	研究の実際	21
1	T V会議システムの利用回数	21
2	T V会議システムの利用にかかわる各協力校の実践	22
(1)	鹿角市立十和田小学校	22
(2)	大館市立山田小学校	25
(3)	由利本荘市立鶴舞小学校	28
(4)	大仙市立東大曲小学校	31
(5)	横手市立栄小学校	34
(6)	美郷町立六郷東根小学校	37
(7)	能代市立東雲中学校	40
(8)	男鹿市立男鹿南中学校	42
(9)	湯沢市立湯沢南中学校	45
3	T V会議システムの有効利用の在り方	48
(1)	センター指導主事と連携した授業での利用	48
(2)	I T V共同授業研究会での利用	50
(3)	20年度の活用の概要について	52
IV	資料	53
1	平成19年度インターネットT V授業等実施一覧	53
2	平成19年度インターネットT V授業研究委員名簿	63

I 研究の概要

1 趣 旨

インターネットTV授業推進事業に伴い整備された設備を活用して、子どもたちが総合教育センターの指導主事等とリアルタイムに対話しながら学習を進めたり、学校間で交流したりするなどして、子どもたちの学習意欲や知的好奇心・探求心を引き出すとともに、個に応じた多様な学習活動を展開し、「分かる授業」「楽しい授業」の実現に資する。

また、TV会議システムの活用により、教員間や教員と指導主事間でリアルタイムに情報交換等することを通して教員の指導力を高め、よりよい授業の実現を図ったり、センターの事業（研修講座や支援事業など）の充実を図ったりする。

2 研究の実施期間

平成18年4月1日から平成21年3月31日の3年間とする。

3 研究の概要

(1) 研究実践の内容について

総合教育センターを中心として公立小・中学校9校を高速回線で接続するネットワークにおいて、テレビ会議システムによる総合教育センターの人材や教育資源の活用及び遠隔授業の実施とこれを用いた指導方法にかかわる研究を行う。

- ①より「分かる授業」「楽しい授業」の実現にかかわる研究
- ②学校の枠を越えたリアルタイムな教員間の連携による質の高い授業の実現にかかわる研究
- ③リアルタイムな学校間交流による特色ある教育活動の実現にかかわる研究
- ④保護者や地域の人々がITを学び、活用する場の実現にかかわる研究
- ⑤教材または指導方法改善としての利用や教育用コンテンツの作成にかかわる研究

(2) インターネットTV授業研究協力校（以下、研究協力校とする）について

① 研究協力校の指定について

次の9校を研究協力校として県教育委員会が指定する。

- | | |
|--------------|--------------|
| ・鹿角市立十和田小学校 | ・大館市立山田小学校 |
| ・由利本荘市立鶴舞小学校 | ・大仙市立東大曲小学校 |
| ・横手市立栄小学校 | ・美郷町立六郷東根小学校 |
| ・能代市立東雲中学校 | ・男鹿市立男鹿南中学校 |
| ・湯沢市立湯沢南中学校 | |

② 研究の実施に伴い整備される設備等

- ・テレビ会議システム一式を整備する。
- ・教室、特別教室等で使用できるようにするための屋内配線を整備する。
- ・整備にかかわる経費を県が助成する。

③ その他

- ・回線使用料は市町村が負担する。

(3) 総合教育センターについて

- ① 総合教育センター内にインターネットTV授業研究室の設置
構成は指導主事2名，研修員2名とする。
- ② 事業の実施に伴い整備される設備等
 - ・総合教育センター内に，本事業にかかわる執務室及びスタジオを設置する。
 - ・テレビ会議システム一式（2台）を整備する。
 - ・各教科研修室及び実習室等で使用できるようにするための屋内配線を整備する。
- ③ インターネットTV授業研究室の業務内容
 - ア インターネットTV授業研究協力校への指導及び支援
 - ・総合教育センターと学校との連絡調整及び指導・支援をする。
 - ・学校間の遠隔授業の連絡調整及び指導・支援をする。
 - ・学校間の交流・共同学習の指導・支援をする。
 - ・研究会議を実施する。
 - イ 県内すべての小・中学校への支援
 - ・各研修部と連携して指導方法の改善に資するビデオ番組を制作し提供する。
 - ・「教材」としての教育用コンテンツを整備する。

4 研究会議について

- (1) 研究を進める上で必要な事項について協議し，事業を円滑に推進するため，県教育委員会・総合教育センターの教職員，協力校の教職員，情報通信技術者等で構成する「インターネットTV授業研究会議」を設置する。
- (2) 研究会議の設置要綱は別に定める。
- (3) 事務局は総合教育センターインターネットTV授業研究室に置くものとする。

5 スケジュール

平成18年5月17日	第1回研究会議（研究の趣旨説明，交流計画にかかわる協議など）
平成18年12月7日	第2回研究会議（研究の成果と課題，次年度の計画など）
平成19年5月11日	第1回研究会議（年間の研究計画等にかかわる協議など）
平成19年12月7日	第2回研究会議（研究の成果と課題，次年度の計画）
平成20年5月上旬	第1回研究会議（年間の研究計画等にかかわる協議など）
平成20年12月上旬	第2回研究会議（研究全体の成果と課題，次年度以降の計画など）

6 インターネットTV授業研究室の統合に伴う業務の移行について

平成16年4月1日よりインターネットTV授業研究室の総合教育センター教科研修班への統合に伴い，インターネットTV授業研究室のすべての業務は同班に移行する。

Ⅱ 研究計画

1 全体計画

1 研究主題	「ＴＶ会議システムの有効利用に関する研究」								
2 研究の期間	平成18年４月１日から平成21年３月31日までの３年間								
3 研究内容	総合教育センターを中心として公立小・中学校９校を高速回線で接続するネットワークにおいて、テレビ会議システムによる総合教育センターの人材や教育資源の活用及び遠隔授業の実施とこれを用いた指導方法にかかわる研究を行う。 (1) より「分かる授業」「楽しい授業」の実現にかかわる研究 (2) 学校の枠を越えたリアルタイムな教員間の連携による質の高い授業の実現にかかわる研究 (3) リアルタイムな学校間交流による特色ある教育活動の実現にかかわる研究 (4) 保護者や地域の人々がＩＴを学び、活用する場の実現にかかわる研究 (5) 教材または指導方法改善としての利用や教育用コンテンツの作成にかかわる研究								
4 研究計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 次</th><th>研 究 内 容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第１年次 (平成18年度)</td><td> ・研究組織の確立と研究計画の立案 ・ＴＶ会議システムの利用に関する基礎的研修 ・インターネットＴＶ授業、交流等の計画立案 ・インターネットＴＶ授業、交流等の実施と記録 ・重点：カリキュラムサポートとしての利用を拡大することの研究 ・第１年次の成果と課題のまとめ、次年度の研究計画の立案 </td></tr> <tr> <td>第２年次 (平成19年度)</td><td> ・研究組織の確認 ・インターネットＴＶ授業、交流等の計画立案 ・インターネットＴＶ授業、交流等の実施と記録 ・重点：校内研修会での利用を拡大することの研究 ・第２年次の成果と課題のまとめ、次年度の研究計画の立案 </td></tr> <tr> <td>第３年次 (平成20年度)</td><td> ・研究組織の確認 ・インターネットＴＶ授業、交流等の計画立案 ・インターネットＴＶ授業、交流等の実施と記録 ・重点：センターの研修講座等での利用を拡大することの研究 ・３年間の研究実践のまとめと紀要の作成 </td></tr> </tbody> </table>	年 次	研 究 内 容	第１年次 (平成18年度)	・研究組織の確立と研究計画の立案 ・ＴＶ会議システムの利用に関する基礎的研修 ・インターネットＴＶ授業、交流等の計画立案 ・インターネットＴＶ授業、交流等の実施と記録 ・重点：カリキュラムサポートとしての利用を拡大することの研究 ・第１年次の成果と課題のまとめ、次年度の研究計画の立案	第２年次 (平成19年度)	・研究組織の確認 ・インターネットＴＶ授業、交流等の計画立案 ・インターネットＴＶ授業、交流等の実施と記録 ・重点：校内研修会での利用を拡大することの研究 ・第２年次の成果と課題のまとめ、次年度の研究計画の立案	第３年次 (平成20年度)	・研究組織の確認 ・インターネットＴＶ授業、交流等の計画立案 ・インターネットＴＶ授業、交流等の実施と記録 ・重点：センターの研修講座等での利用を拡大することの研究 ・３年間の研究実践のまとめと紀要の作成
年 次	研 究 内 容								
第１年次 (平成18年度)	・研究組織の確立と研究計画の立案 ・ＴＶ会議システムの利用に関する基礎的研修 ・インターネットＴＶ授業、交流等の計画立案 ・インターネットＴＶ授業、交流等の実施と記録 ・重点：カリキュラムサポートとしての利用を拡大することの研究 ・第１年次の成果と課題のまとめ、次年度の研究計画の立案								
第２年次 (平成19年度)	・研究組織の確認 ・インターネットＴＶ授業、交流等の計画立案 ・インターネットＴＶ授業、交流等の実施と記録 ・重点：校内研修会での利用を拡大することの研究 ・第２年次の成果と課題のまとめ、次年度の研究計画の立案								
第３年次 (平成20年度)	・研究組織の確認 ・インターネットＴＶ授業、交流等の計画立案 ・インターネットＴＶ授業、交流等の実施と記録 ・重点：センターの研修講座等での利用を拡大することの研究 ・３年間の研究実践のまとめと紀要の作成								

2 各研究協力校の計画

(1) 鹿角市立十和田小学校

学校名	鹿角市立十和田小学校							校長名	山 口 正 志				職員数	25		
所在地	鹿角市十和田毛馬内字上新田 1 - 1								郵便番号	018-5334						
電話番号	0186-35-2042						FAX番号		0186-35-2162							
学級数	学 級 数								児 童 生 徒 数							
児童生徒数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊	計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊	計
	2	2	2	2	2	2	3	1 5	57	56	52	61	58	67	5	356
ホームページ	http://www.ink.or.jp/~toshou/															
研究主題	T V会議システムを活用した、楽しくて分かる授業の実現															
研究主題の説明（設定理由，研究の視点，研究の方法等）	【設定理由】 本校の教育目標は、「かしこく、やさしく、たくましく」実行力のある子どもの育成である。知・情・意・体の面から健やかに育ち、最後まで熱心に行う子どもを育てることを目指している。学習意欲を喚起し、主体的に学ぶ児童を育てるための一つの手段として、本校では、離れた場所とリアルタイムで双方向のやりとりが可能なT V会議システムを取り入れることにした。インターネットT V授業を通して、児童の学習意欲の向上やコミュニケーション能力・表現力の向上を図り、「楽しくて分かる授業の実現」を目指すことにした。 また、他校の教員や総合教育センターの指導主事と指導技術等についてリアルタイムに情報交換することにより、本校職員の指導力の向上が見られ、授業改善が促進されるものと確信する。T V会議システムの導入によって、県都から遠い鹿角地域であっても、様々な教育情報の到着が遅れるという今までのハンディが少しでも克服されることを期待する。 【研究の視点】 「インターネットT V授業」の導入によって、授業の活性化が図られるものと期待する。指導主事から、教育用コンテンツを用いた丁寧な説明を受けたり、学習活動に対するアドバイスを得たりすることによって、楽しくて分かる授業が増えていくものと思われる。学力向上拠点形成事業の推進校に指定されている本校においては、T V会議システムの活用を学力向上のための重要な施策の一つとして位置付けていることを申し添えたい。 また、学校間交流や地域間交流においては、調査内容や調査した結果のまとめ方を工夫し、よりよく伝えようとする意欲が高まると思われる。他者に自分たちのことを紹介する活動を通して、自分たちのふるさを見つめ直し、改めてふるさとのよさを発見する機会にもなる。 以下、研究の視点として留意したいことを挙げると ①指導主事が支援する授業のねらいをはっきりさせたい。 ・何を学ばせたいのか、どんな活動をさせたいのか、ねらいをはっきりさせたい。 ・どんな場面で、何を指導してもらいたいのか、はっきりさせたい。 ②担当者同士の綿密な打ち合わせを行いたい。 ・ねらいに到達できる学習過程を両者で出し合い、明確にしたい。 ③他校児童との学び合いを通して、児童の表現力の育成を目指したい。 ・双方向性を生かしたやりとりができるよう、画面の向こうの相手を意識しながらの目線や話し方、発表資料作りにおける文字の大きさ、色使い、資料の提示方法を工夫したい。 ・話の聞き方についても、落ち着いて話を聞けるように指導したい。 【研究の方法】 ・研究組織の確立，研究計画の立案 ・インターネットT V授業年間指導計画の作成 ・校内機器操作講習会の実施 ・学力向上拠点形成事業の研究の一環としての利用推進 ・カリキュラムサポートとしての利用拡大に関する研究推進 ・交流・共同学習の実施と記録 ・学校外の教員との連携による授業の実施と記録															

	・児童同士の学校間交流の実施と記録 ・保護者や地域の人々同士の地域間交流の実施と記録 ・実践内容のホームページ掲載 ・研究の成果とまとめ																						
研究体制	<table><tr><td>校長</td><td>教頭</td><td>校内インターネット TV授業研究委員会</td><td>全体研究会 (職員会議)</td><td>学団・学年部会 教科部会</td></tr></table> <table><tr><th>組 織</th><th>構 成</th><th>主 た る 活 動</th></tr><tr><td>校 内 インターネット T V 授 業 研 究 委 員 会</td><td>校長, 教頭 教務主任, 研究 主任, 情報処理 主担当, 学習部 長, 主事</td><td> ・研究全体の企画立案並びに推進 ・全体研究会の企画運営, 連絡・調整 ・研究情報の連絡・提供 ・通信環境の整備 </td></tr><tr><td>全 体 研 究 会 (職員会議)</td><td>全職員</td><td> ・学力向上拠点形成事業における位置付け についての共通理解 </td></tr><tr><td>学団・学年部会</td><td>低学団部 中学団部 高学団部</td><td> ・研究計画の実践 ・インターネットTV授業年間指導計画の 作成 </td></tr><tr><td>教 科 部 会</td><td>算数科 理 科</td><td> ・各教科におけるTV会議システムの有効 活用の研究 </td></tr></table>			校長	教頭	校内インターネット TV授業研究委員会	全体研究会 (職員会議)	学団・学年部会 教科部会	組 織	構 成	主 た る 活 動	校 内 インターネット T V 授 業 研 究 委 員 会	校長, 教頭 教務主任, 研究 主任, 情報処理 主担当, 学習部 長, 主事	・研究全体の企画立案並びに推進 ・全体研究会の企画運営, 連絡・調整 ・研究情報の連絡・提供 ・通信環境の整備	全 体 研 究 会 (職員会議)	全職員	・学力向上拠点形成事業における位置付け についての共通理解	学団・学年部会	低学団部 中学団部 高学団部	・研究計画の実践 ・インターネットTV授業年間指導計画の 作成	教 科 部 会	算数科 理 科	・各教科におけるTV会議システムの有効 活用の研究
校長	教頭	校内インターネット TV授業研究委員会	全体研究会 (職員会議)	学団・学年部会 教科部会																			
組 織	構 成	主 た る 活 動																					
校 内 インターネット T V 授 業 研 究 委 員 会	校長, 教頭 教務主任, 研究 主任, 情報処理 主担当, 学習部 長, 主事	・研究全体の企画立案並びに推進 ・全体研究会の企画運営, 連絡・調整 ・研究情報の連絡・提供 ・通信環境の整備																					
全 体 研 究 会 (職員会議)	全職員	・学力向上拠点形成事業における位置付け についての共通理解																					
学団・学年部会	低学団部 中学団部 高学団部	・研究計画の実践 ・インターネットTV授業年間指導計画の 作成																					
教 科 部 会	算数科 理 科	・各教科におけるTV会議システムの有効 活用の研究																					
研究計画	<table><tr><td>第1年次 (平成18年度)</td><td> ・研究組織の確立, 研究計画の立案 ・全体研修会の実施 (過去3年間の効果的な活用例の紹介) ・校内機器操作講習会の実施 ・学力向上拠点形成事業の研究の一環としての利用推進 確かな学力を身に付けさせるための日常的なカリキュ ラムサポートとしての利用拡大に関する研究推進 ・インターネットTV授業, 交流等の計画立案 ・インターネットTV授業, 交流等の実施と記録 ・学級経営や生徒指導上の諸問題に関する相談の実施と記録 ・第1年次の成果と課題のまとめ, 次年度の研究計画の立案 </td></tr><tr><td>第2年次 (平成19年度)</td><td> ・研究組織の確認 ・校内機器操作講習会の実施 ・学力向上拠点形成事業の研究の一環としての利用推進 ・校内研修会での利用拡大に関する研究推進 ・インターネットTV授業, 交流等の計画立案 ・インターネットTV授業, 交流等の実施と記録 ・第2年次の成果と課題のまとめ, 次年度の研究計画の立案 </td></tr><tr><td>第3年次 (平成20年度)</td><td> ・研究組織の確認 ・校内機器操作講習会の実施 ・センターの研修講座等の積極的な利用拡大に関する研究推進 ・インターネットTV授業, 交流等の計画立案 ・インターネットTV授業, 交流等の実施と記録 ・効果的な活用事例集の作成, 発行 ・3年間の研究実践のまとめと紀要の作成 </td></tr></table>			第1年次 (平成18年度)	・研究組織の確立, 研究計画の立案 ・全体研修会の実施 (過去3年間の効果的な活用例の紹介) ・校内機器操作講習会の実施 ・学力向上拠点形成事業の研究の一環としての利用推進 確かな学力を身に付けさせるための日常的なカリキュ ラムサポートとしての利用拡大に関する研究推進 ・インターネットTV授業, 交流等の計画立案 ・インターネットTV授業, 交流等の実施と記録 ・学級経営や生徒指導上の諸問題に関する相談の実施と記録 ・第1年次の成果と課題のまとめ, 次年度の研究計画の立案	第2年次 (平成19年度)	・研究組織の確認 ・校内機器操作講習会の実施 ・学力向上拠点形成事業の研究の一環としての利用推進 ・校内研修会での利用拡大に関する研究推進 ・インターネットTV授業, 交流等の計画立案 ・インターネットTV授業, 交流等の実施と記録 ・第2年次の成果と課題のまとめ, 次年度の研究計画の立案	第3年次 (平成20年度)	・研究組織の確認 ・校内機器操作講習会の実施 ・センターの研修講座等の積極的な利用拡大に関する研究推進 ・インターネットTV授業, 交流等の計画立案 ・インターネットTV授業, 交流等の実施と記録 ・効果的な活用事例集の作成, 発行 ・3年間の研究実践のまとめと紀要の作成														
第1年次 (平成18年度)	・研究組織の確立, 研究計画の立案 ・全体研修会の実施 (過去3年間の効果的な活用例の紹介) ・校内機器操作講習会の実施 ・学力向上拠点形成事業の研究の一環としての利用推進 確かな学力を身に付けさせるための日常的なカリキュ ラムサポートとしての利用拡大に関する研究推進 ・インターネットTV授業, 交流等の計画立案 ・インターネットTV授業, 交流等の実施と記録 ・学級経営や生徒指導上の諸問題に関する相談の実施と記録 ・第1年次の成果と課題のまとめ, 次年度の研究計画の立案																						
第2年次 (平成19年度)	・研究組織の確認 ・校内機器操作講習会の実施 ・学力向上拠点形成事業の研究の一環としての利用推進 ・校内研修会での利用拡大に関する研究推進 ・インターネットTV授業, 交流等の計画立案 ・インターネットTV授業, 交流等の実施と記録 ・第2年次の成果と課題のまとめ, 次年度の研究計画の立案																						
第3年次 (平成20年度)	・研究組織の確認 ・校内機器操作講習会の実施 ・センターの研修講座等の積極的な利用拡大に関する研究推進 ・インターネットTV授業, 交流等の計画立案 ・インターネットTV授業, 交流等の実施と記録 ・効果的な活用事例集の作成, 発行 ・3年間の研究実践のまとめと紀要の作成																						

(2) 大館市立山田小学校

学校名	大館市立山田小学校					校長名	金 澤 憲 一				職員数	10
所在地	大館市山田字寺の下24						郵便番号	018-3502				
電話番号	0186-54-3030					FAX 番号	0186-54-6060					
学級数 児童 生徒数	学 級 数						児 童 生 徒 数					
	1年	2年	3・4年	5・6年	特殊	計	1年	2年	3・4年	5・6年	特殊	計
	1	1	1	1	1	5	6	7	5	10	1	29
ホームページ	http://www.akita-c.ed.jp/~sch11572/											
研究主題	「インターネットTV授業」を活用した授業改善を目指して											
研究主題の説明（設定理由，研究の視点，研究の方法等）	【設定理由】 昨年の実践から，成果と課題として下記の内容が挙げられた。 《成果》 ①音楽などの異学年合同授業では，センターの協力でTT方式の授業が可能だということがわかった。 ②本校と他地域の情報を共有することで，児童の社会的な認識を深めることができた。 ③児童に相手意識が生まれ，問いかけへの反応が積極的になった。 ④極少人数である本校にとって，同じ小規模校である六郷東根小学校との交流学习は，有意義であり意欲を高めるうえでも効果的だった。 ⑤センター研修員の先生による交流学习で学習を深めることができた。 《課題》 ①児童のコミュニケーション能力を高めるための活用。 ②授業が優先され，取り組みが弱かった保護者や地域の人々への活用。 これらの成果と課題を受けて，昨年度の「話す力・聞く力の育成」にくわえ，今年度本校の研究主題になっている「読解力」向上に向けた授業改善のためにインターネットTV授業を活用したいと考え，本主題を設定した。 【研究の視点】 ・情報を共有したり比較したりすることによって，学習の広がりや深まりを促す共同・交流授業のあり方を探る。 ・他地域との交流を通して，コミュニケーション能力の向上を図る。 ・センターの人材・教育資源を生かした少人数学習の工夫。 ・教材研究や授業の打ち合わせを通して，教員の授業力向上を図る。 ・カリキュラムサポートにより教職員研修に深まりをもたらす。 【研究の方法】 ・よりよい少人数学習をめざして授業に取り組み，成果と課題を明らかにしていく。 ・コミュニケーション能力向上のために適した単元・教材・活用場面を考えて授業に取り組む。 ・打ち合わせや校内研修会・指導案検討会において，センターの指導主事から指導を受ける。 ・積極的なカリキュラムサポートの利用。											

研究体制	校長―教頭―研究推進委員会―全体研修会（全職員） （教務主任・研究主任）		
	組 織	構 成	主 な 活 動
	研究推進委員会	校長・教頭 教務主任 研究主任	・研究全体の企画立案並びに推進 ・授業時間の調整・時数確保 ・通信環境の整備 ・全員研修会の企画，運営，連絡調整 ・研究情報の連絡・提供
	全体研修会	全 職 員	・全体の方向性の決定 ・共通理解
研究計画			
	第1年次 （平成18年度）	・研究組織の確立・通信環境整備・基礎的研修 ・活用例の情報収集・機器操作講習会 ・研究計画立案・授業計画の立案・成果と課題のまとめ	
	第2年次 （平成19年度）	・研究組織の確認・機器操作講習会の実施 ・授業計画の立案・授業参観の推進 ・成果と課題のまとめ	
	第3年次 （平成20年度）	・引き継ぎ校，引き継ぎ事項検討中	

(3) 由利本荘市立鶴舞小学校

学校名	由利本荘市立鶴舞小学校	校長名	齋 藤 光 正	職員数	28											
所在地	由利本荘市水林	郵便番号	015-0885													
電話番号	0184-22-1422	FAX番号	0184-22-1423													
学級数	学 級 数							児 童 生 徒 数								
児童生徒数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特	計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特	計
	2	3	3	3	2	3	1	17	62	83	85	85	76	89	1	480
ホームページ	http://www.tsurumai.yurihonjo.ed.jp/															
研究主題	よりよい自分を求めて、自ら学び高め合う子どもの育成															
研究主題の説明（設定理由、研究の視点、研究の方法等）	【主題設定の理由】 児童が興味・関心をもって課題に取り組み、自分の考えをきちんともち、互いの考えに触れることで、自分の考えをさらに高め合うことができるようにと願い、本主題を設定した。単に、自分の考えを発表し合うだけでなく、互いの考えと比較したり、誤答を生かしたりしながらよりよい考えを導く「学び合い」の場を大切にしながら研究主題に迫っていく。 【研究の視点】 研究主題の実現のために、今年度は、問題解決的な学習活動を効果的に取り入れ、個の実態に応じて指導方法等を工夫することを研究の重点としていく。 そこで、個の考えを高めるための一つの方法としてTV会議システムを活用する。また、昨年度までと同様に、表現力を育成するための手段としても活用を進めていく。 さらに、今年度は地区公開研究会開催の年に当たるため、教材研究や指導案検討なども含め校内研究会での効果的な活用を図ることとする。 【研究の方法】 (1) 総合教育センターと連携した授業実践 ① 単元の導入での活用 ② 指導主事の専門性を生かした活用 ③ 少人数学習やTTとしての活用 (2) 他校との交流・共同学習や情報交換の実施 ① 表現力を高めるための活用 ② 互いの情報を交換し、学習を深めるための活用 (3) 指導方法改善のための活用 ① 教材研究、授業研究会での活用 ② 教育相談等における活用															

	③ 共同授業研究会の実施 (4) 保護者や地域に広げるための活用 ① PTA参観日等における活用 ② 本荘由利教育研究会等での活用						
研究体制	1 情報教育指導部による情報教育計画の立案と情報教育の推進 2 各教科部、各学年部による実践 3 研修職員会議における情報交換と指導計画の修正 <pre> graph LR A[研修職員会議] --- B[情報教育指導部] B --- C[各教科部] B --- D[各学年部] </pre>						
研究計画	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; vertical-align: top; padding: 5px;">第1年次 (平成18年度)</td><td style="padding: 5px;"> ・ 研究組織の確認と研究計画の立案 ・ TV会議システムの利用に関する基礎的研修 ・ インターネットTV授業の計画立案と実施 ・ より効果的な交流，共同学習の研究 ・ 授業研究会や教材研究等における活用，研究 ・ 地域への利用を拡大することの研究 ・ 成果と課題のまとめと研究計画の修正 </td></tr> <tr> <td style="vertical-align: top; padding: 5px;">第2年次 (平成19年度)</td><td style="padding: 5px;"> ・ 研究組織の確認と研究計画の立案 ・ TV会議システムの利用に関する基礎的研修 ・ インターネットTV授業の計画立案と実施 ・ より効果的な交流，共同学習の研究 ・ 授業研究会や教材研究等における活用，研究（公開研究会） ・ 地域への利用を拡大することの研究 ・ 成果と課題のまとめと研究計画の修正 </td></tr> <tr> <td style="vertical-align: top; padding: 5px;">第3年次 (平成20年度)</td><td style="padding: 5px;"> ・ 研究組織の確認と研究計画の立案 ・ TV会議システムの利用に関する基礎的研修 ・ インターネットTV授業の計画立案と実施 ・ より効果的な交流，共同学習の研究 ・ 授業研究会や教材研究等における活用，研究 ・ 総合教育センターの研修講座の活用 ・ 地域への利用を拡大することの研究 ・ 成果と課題のまとめと研究計画の修正 </td></tr> </table>	第1年次 (平成18年度)	・ 研究組織の確認と研究計画の立案 ・ TV会議システムの利用に関する基礎的研修 ・ インターネットTV授業の計画立案と実施 ・ より効果的な交流，共同学習の研究 ・ 授業研究会や教材研究等における活用，研究 ・ 地域への利用を拡大することの研究 ・ 成果と課題のまとめと研究計画の修正	第2年次 (平成19年度)	・ 研究組織の確認と研究計画の立案 ・ TV会議システムの利用に関する基礎的研修 ・ インターネットTV授業の計画立案と実施 ・ より効果的な交流，共同学習の研究 ・ 授業研究会や教材研究等における活用，研究（公開研究会） ・ 地域への利用を拡大することの研究 ・ 成果と課題のまとめと研究計画の修正	第3年次 (平成20年度)	・ 研究組織の確認と研究計画の立案 ・ TV会議システムの利用に関する基礎的研修 ・ インターネットTV授業の計画立案と実施 ・ より効果的な交流，共同学習の研究 ・ 授業研究会や教材研究等における活用，研究 ・ 総合教育センターの研修講座の活用 ・ 地域への利用を拡大することの研究 ・ 成果と課題のまとめと研究計画の修正
第1年次 (平成18年度)	・ 研究組織の確認と研究計画の立案 ・ TV会議システムの利用に関する基礎的研修 ・ インターネットTV授業の計画立案と実施 ・ より効果的な交流，共同学習の研究 ・ 授業研究会や教材研究等における活用，研究 ・ 地域への利用を拡大することの研究 ・ 成果と課題のまとめと研究計画の修正						
第2年次 (平成19年度)	・ 研究組織の確認と研究計画の立案 ・ TV会議システムの利用に関する基礎的研修 ・ インターネットTV授業の計画立案と実施 ・ より効果的な交流，共同学習の研究 ・ 授業研究会や教材研究等における活用，研究（公開研究会） ・ 地域への利用を拡大することの研究 ・ 成果と課題のまとめと研究計画の修正						
第3年次 (平成20年度)	・ 研究組織の確認と研究計画の立案 ・ TV会議システムの利用に関する基礎的研修 ・ インターネットTV授業の計画立案と実施 ・ より効果的な交流，共同学習の研究 ・ 授業研究会や教材研究等における活用，研究 ・ 総合教育センターの研修講座の活用 ・ 地域への利用を拡大することの研究 ・ 成果と課題のまとめと研究計画の修正						

(4) 大仙市立東大曲小学校

学校名	大仙市立東大曲小学校							校長名	長澤 真人				職員数	14			
所在地	秋田県大仙市大曲字下高畑 8 1								郵便番号	014-0031							
電話番号	0187-63-1020							FAX番号	0187-86-0979								
学級数	学 級 数								児 童 生 徒 数								
児童生徒数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特 殊	計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特 殊	計	
	1	1	1	1	1	1	2	8	14	10	6	20	14	12	5	81	
ホームページ	http://www.edu.city.daisen.akita.jp/~om-higashisyo/																
研究主題	T V 会 議 シ ス テ ム の 効 果 的 な 活 用 を め ざ し て ～分かる，楽しい授業，伝え学び合う学習の展開～																
研究主題の説明 (設定理由， 研究の視点， 研究の方法 等)	【設定理由】 本校は，これまで自分の考えを自分の言葉で積極的に表現する能力や態度を重視して研究を重ねてきた。その結果，個人的な表現力は向上しているものの，さらに児童が考えを深めて学び合う必要性を確認し合った。そこで本年度の全体研究主題を「共に学び合い，生き生きと表現できる子どもの育成」とした。 課題に意欲的に取り組み，自ら考え，学び合いによって自分の考えをより確かなものにしたり，深め広げたりしていくことを重点とし，分かる，楽しい授業，伝え学び合う学習の展開を工夫していく。そのために教師は，課題提示の工夫や学び合いを充実させるための工夫などの授業改善を図っていく必要がある。授業を構築する教師の力量を高めることは，児童の学力向上に直結する。そこで教師の授業力向上を目的として，他校の計画・要請訪問による研究授業をT Vで参観したり，研究協議会での話し合い内容をT Vで見たりすることが一つの有効活用と捉えている。また，本校では特別支援学級の児童が，心をかよわせ，共に学び認め合う豊かな交流ができるように，他校の友達とT Vを通じて，互いに励まし合う温かな活動を進めたいと考えている。 このようなことから，研究主題を設定した。 【研究の視点】 ・ 確かな学力の定着と個を生かす教育の推進 ・ 教員の意識改革と資質向上 ・ 特別支援学級の豊かな交流の推進 【研究の方法】 ・ 総合教育センターと連携した授業 ・ 総合教育センターへの相談や学校間での情報交換																

	・児童同士の学校間交流 ・教師の授業力向上 ・保護者や地域への事業の紹介と各学校への営みの発信						
研究体制	校 長 ↓ インターネットTV推進委員会 ○教頭 教務 研究主任 各学団主任 ↓ 全体研究会 ↓ 授業実践部 ○研究主任 各学級担任 情報交換部 ○研究主任 各学級担任 学校間交流部 ○教務 各学級担任 地域間交流部 ○教頭 各学級担任						
研究計画	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; padding: 5px; vertical-align: top;"> 第1年次 (平成18年度) </td><td style="padding: 5px;"> ・研究組織の確立と研究計画の立案 ・TV会議システムの利用に関する基礎的研修 ・インターネットTV授業，交流等の計画立案 ・カリキュラムサポートとしての効果的利用法の研究 ・第1年次の成果と課題のまとめ ・次年度の研究計画の立案 </td></tr> <tr> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;"> 第2年次 (平成19年度) </td><td style="padding: 5px;"> ・研究組織の見直しと確立 ・TV会議システムの利用に関する基礎的研修 ・インターネットTV授業，交流等の計画立案 ・授業研究会や教材研究等における効果的利用法の研究 ・第2年次の成果と課題のまとめ ・次年度の研究計画の立案 </td></tr> <tr> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;"> 第3年次 (平成20年度) </td><td style="padding: 5px;"> ・研究組織の見直しと確立 ・TV会議システムの利用に関する基礎的研修 ・インターネットTV授業，交流等の計画立案 ・センターの研修講座等での利用を拡大することの研究 ・3年間の研究実践のまとめと紀要作成 </td></tr> </table>	第1年次 (平成18年度)	・研究組織の確立と研究計画の立案 ・TV会議システムの利用に関する基礎的研修 ・インターネットTV授業，交流等の計画立案 ・カリキュラムサポートとしての効果的利用法の研究 ・第1年次の成果と課題のまとめ ・次年度の研究計画の立案	第2年次 (平成19年度)	・研究組織の見直しと確立 ・TV会議システムの利用に関する基礎的研修 ・インターネットTV授業，交流等の計画立案 ・授業研究会や教材研究等における効果的利用法の研究 ・第2年次の成果と課題のまとめ ・次年度の研究計画の立案	第3年次 (平成20年度)	・研究組織の見直しと確立 ・TV会議システムの利用に関する基礎的研修 ・インターネットTV授業，交流等の計画立案 ・センターの研修講座等での利用を拡大することの研究 ・3年間の研究実践のまとめと紀要作成
第1年次 (平成18年度)	・研究組織の確立と研究計画の立案 ・TV会議システムの利用に関する基礎的研修 ・インターネットTV授業，交流等の計画立案 ・カリキュラムサポートとしての効果的利用法の研究 ・第1年次の成果と課題のまとめ ・次年度の研究計画の立案						
第2年次 (平成19年度)	・研究組織の見直しと確立 ・TV会議システムの利用に関する基礎的研修 ・インターネットTV授業，交流等の計画立案 ・授業研究会や教材研究等における効果的利用法の研究 ・第2年次の成果と課題のまとめ ・次年度の研究計画の立案						
第3年次 (平成20年度)	・研究組織の見直しと確立 ・TV会議システムの利用に関する基礎的研修 ・インターネットTV授業，交流等の計画立案 ・センターの研修講座等での利用を拡大することの研究 ・3年間の研究実践のまとめと紀要作成						

(5) 横手市立栄小学校

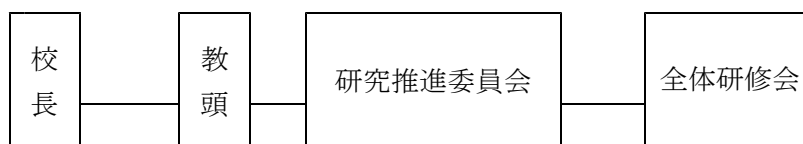
学校名	横手市立栄小学校							校長名	佐 藤 健 悦				職員数	12		
所在地	横手市大屋寺内字長谷下 6 - 3								郵便番号	013-0052						
電話番号	0182-33-5210							FAX番号	0182-33-7565							
学級数	学 級 数								児 童 生 徒 数							
児童生徒数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特 殊	計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特 殊	計
	1	1	1	1	1	1	1	7	12	18	21	23	20	27	2	129
ホームページ	http://park8.wakwak.com/~sakaesyo/															
研究主題	言語表現力を高めるためのツールとしてのTV会議システムの有効活用															
研究主題の説明 (設定理由、研究の視点、研究の方法等)	【設定理由】 インターネットTV授業推進事業も第2期となり、新たな展開を模索することとなった。これまでの4年間の蓄積をもとに、より効果的なインターネットTV授業を目指すことに加え、授業改善や学校経営改善のためにセンターの機能や他校との連携を生かす取り組みが求められている。また、センターの機能を推進協力校を拠点にTV会議システムを介して広く利用できるようにする取り組み等も新たな展望としている。つまり、その学校や地域の必要に応じて授業・相談・研修などでセンターの機能をTV会議システムを介して利用できるようにする試みと言える。 したがて、栄小学校のニーズに即した独自の活用の仕方を模索することが2期の推進事業の主旨に適うことにつながるものと考える。 そこで、本校においては今年度の学校の研究主題「生き生きと伝え合う子どもの育成を目指して～言語表現力を高めるための指導の工夫～」を受けて、その研究を促進するツールとしての活用を中心に進めていきたいと考えた。 【研究の重点】 ・機械操作やTV会議システムの有効活用の仕方についての研修の充実 ・インターネットTV授業年間指導計画の整備 ・授業改善の手段としての有効な活用法の試行 ・学校経営改善へのTV会議システム活用の試行 ・周辺校や地域の人々へのTV会議システム活用への啓蒙・支援 【研究の方法】 ・本校の実態把握と実践の経過にともなう変容の姿を客観的にとらえる（アンケート調査） ・TV会議システムの活用の構成における様々な交流パターンを意識的に実践し、実践記録を蓄積する。															

	・TV会議システムを活用する上での問題点の洗い出し（より有効に活用するための前向きな視点で） ・他校との情報交換 ・研究授業のように授業を提示する方法もあるが、授業を協力して行う過程で総合教育センターの指導主事等との事前打ち合わせや授業の反省等の場を設け、その中のアドバイスや授業の講評により授業力の向上を図る。						
研究体制							
研究計画	<table border="1"> <tr> <td>第1年次 (平成18年度)</td><td> ・研究組織の確立 ・研究計画の立案 ・本事業の趣旨の理解 ・TV会議システムの利用に関する基礎的研修 ・インターネットTV授業，交流等の計画立案 ・インターネットTV授業，交流等の実施と記録 ・カリキュラムサポートとしての利用拡大に関する研究 ・第1年次の成果と課題のまとめ，次年度の研究計画の立案 </td></tr> <tr> <td>第2年次 (平成19年度)</td><td> ・研究組織の確認 ・インターネットTV授業，交流等の計画立案 ・インターネットTV授業，交流等の実施と記録 ・カリキュラムサポートとしての利用拡大に関する研究 ・校内研修会での利用拡大に関する研究 ・第2年次の成果と課題のまとめ，次年度の研究計画の立案 </td></tr> <tr> <td>第3年次 (平成20年度)</td><td> ・研究組織の確認 ・インターネットTV授業，交流等の計画立案 ・インターネットTV授業，交流等の実施と記録 ・カリキュラムサポートとしての利用拡大に関する研究 ・校内研修会での利用拡大に関する研究 ・3年間の研究実践のまとめと紀要の作成 </td></tr> </table>	第1年次 (平成18年度)	・研究組織の確立 ・研究計画の立案 ・本事業の趣旨の理解 ・TV会議システムの利用に関する基礎的研修 ・インターネットTV授業，交流等の計画立案 ・インターネットTV授業，交流等の実施と記録 ・カリキュラムサポートとしての利用拡大に関する研究 ・第1年次の成果と課題のまとめ，次年度の研究計画の立案	第2年次 (平成19年度)	・研究組織の確認 ・インターネットTV授業，交流等の計画立案 ・インターネットTV授業，交流等の実施と記録 ・カリキュラムサポートとしての利用拡大に関する研究 ・校内研修会での利用拡大に関する研究 ・第2年次の成果と課題のまとめ，次年度の研究計画の立案	第3年次 (平成20年度)	・研究組織の確認 ・インターネットTV授業，交流等の計画立案 ・インターネットTV授業，交流等の実施と記録 ・カリキュラムサポートとしての利用拡大に関する研究 ・校内研修会での利用拡大に関する研究 ・3年間の研究実践のまとめと紀要の作成
第1年次 (平成18年度)	・研究組織の確立 ・研究計画の立案 ・本事業の趣旨の理解 ・TV会議システムの利用に関する基礎的研修 ・インターネットTV授業，交流等の計画立案 ・インターネットTV授業，交流等の実施と記録 ・カリキュラムサポートとしての利用拡大に関する研究 ・第1年次の成果と課題のまとめ，次年度の研究計画の立案						
第2年次 (平成19年度)	・研究組織の確認 ・インターネットTV授業，交流等の計画立案 ・インターネットTV授業，交流等の実施と記録 ・カリキュラムサポートとしての利用拡大に関する研究 ・校内研修会での利用拡大に関する研究 ・第2年次の成果と課題のまとめ，次年度の研究計画の立案						
第3年次 (平成20年度)	・研究組織の確認 ・インターネットTV授業，交流等の計画立案 ・インターネットTV授業，交流等の実施と記録 ・カリキュラムサポートとしての利用拡大に関する研究 ・校内研修会での利用拡大に関する研究 ・3年間の研究実践のまとめと紀要の作成						

(6) 美郷町立六郷東根小学校

学校名	美郷町立六郷東根小学校					校長名	石 山 寛				職員数	1 4	
所在地	仙北郡美郷町六郷東根字上中村 2 7						郵便番号	0 1 9 - 1 4 0 3					
電話番号	0 1 8 7 - 8 4 - 1 2 8 2					FAX番号	0 1 8 7 - 8 4 - 1 8 1 5						
学級数	学 級 数						児 童 生 徒 数						
児童 生徒数	1年	2年	3・4年	5・6年	特殊	計	1年	2年	3・4年	5・6年	特殊	計	
	1	1	1	1	1	5	6	1 1	1 2	1 1	1	4 1	
ホームページ	http : //www.obako.or.jp/610est 01/												
研究主題	インターネットTV授業の効果的な活用をめざして												
研究主題の説明 (設定理由, 研究の視点, 研究の方法等)	〔設定理由〕 本校は、小規模校であるため、ともすれば教師も含めて児童の学びも小さくなりがちである。そこで児童の視野を広げ、様々な物の見方や考え方をさせるために、学級や学校の枠を越え、人・地域・自然と積極的にのかかわり、様々な体験や経験をすることが大切であると考えた。そこで自分の考えや思いを表現し、伝える必要性を持たせることにインターネットTV授業を効果的に活用し、確かな学力と教師の指導力の向上をめざすことを考え、この研究主題を設定した。 〔研究の視点〕 ・児童の学力向上に関わる活用 ・教員の意識改革と指導力向上に関わる活用 ・家庭・地域へのインターネットTVの活用 〔研究の方法〕 ・機器操作のための職員研修 ・インターネットTV授業の利用に関する基礎的研修 ・効果的な活用にするための教材精選（各学級における希望調査） ・総合教育センターと連携した授業の実践 ・学校間交流学习や他校との情報交換 ・授業記録の蓄積 ・保護者や地域の人々への事業の紹介や参加の促進 ・研究の成果とまとめ												

研究体制



組 織	編 成	主 な 活 動
研究推進委員会	校長 教頭 教務主任 研究主任 情報教育担当	・研究全体の企画立案並びに推進 ・授業時間の調整 ・通信環境の整備 ・研修会の計画，運営 ・情報の収集・提供・連絡
全体研修会	全 職 員	・機器操作の講習 ・事業の共通理解 ・成果と課題のまとめ

研究計画

第1年次 (平成18年)	・研究組織の確立 ・通信環境整備 ・基礎的研修 ・機器操作講習会の実施 ・活用例の情報提供 ・研究計画の立案 ・インターネットTV授業，交流学习の立案 ・1年次の成果と課題のまとめ
第2年次 (平成19年)	・研究組織や計画の確認 - 機器操作講習会実施 ・インターネットTV授業，交流学习の効果的な活用の実践と研修 ・2年次の成果と課題のまとめ ・3年次への研究計画の立案
第3年次 (平成20年)	・研究組織や計画の確認 - 機器操作講習会実施 ・インターネットTV授業，交流学习の効果的な活用の実践と研修 ・保護者や地域の人々への活用の在り方 ・3年間の研究実践のまとめ

(7) 能代市立東雲中学校

学 校 名	能代市立東雲中学校							校長名	木 藤 久 照					職員数	22							
所 在 地	能代市向能代字トトメキ106番地1号									郵便番号	016－0013											
電話番号	0185－52－5119								F A X 番 号	0185－55－2597												
学級数	学 級 数									生 徒 数												
生徒数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊	計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊	計						
	3	3	2				1	9	84	84	80				1	249						
ホームページ	http://www.shirakami.or.jp/~shino1/																					
研究主題	確かな学力の向上を図るTV会議システムの活用の在り方																					
研究主題の説明 (設定理由、研究の視点、研究の方法等)	本校の全校研究主題は「確かな学力を身に付け、自ら学ぶ力を高める指導」である。ここでは、「確かな学力」を「自ら学び自ら考え、自ら課題を設定し解決していくことができる力」と定義して取り組んでいる。そこで、TV会議システムを活用して、「確かな学力」を身に付けるための指導法の研究や効果的な交流の在り方について探っていきたいと考え主題を設定した。 TV会議システムを導入し、授業改善の手立てや指導法の研究を行ったり、多様な指導形態を取り入れたりしながら、より生徒の興味・関心を高める学習活動の展開を模索する。生徒が他校や他校種との交流を通して広い視野で物事をとらえ、課題を見付け、解決していくことができるような学習活動を考えていきたい。																					
研究体制	校 長 教 頭 職員会議・研修会 特別活動 研修部 生徒指導部 健康安全 学習指導 総合学習 教科指導 道徳教育 情報教育 図書館教育 学力向上フロンティアスピリット TV会議システム コンピュータ教育																					
研究計画	<table><tr><td>第1次 (平成18年度)</td><td> ・校内組織の検討・確立 ・TV会議システムの利用に関する基礎的研修（5月） ・教育センターからの遠隔授業（効果的な活用場面の検討・実践） ・学校間及びPTA，地域間の交流等の計画・実践・検討 ・第1年次及び通算4年目の成果と課題のまとめ </td></tr><tr><td>第2次 (平成19年度)</td><td> ・校内組織の確認（各学年担当者の設置と研修・連絡調整：5月） ・教育センターからの遠隔授業の効果的な活用 ・学校間及びPTA，地域間の交流等の実践（地域人材の活用の計画・実践・検討） ・第2年次の成果と課題のまとめ </td></tr><tr><td>第3次 (平成20年度)</td><td> ・校内組織の確認（各学年担当者の設置と研修・連絡調整：5月） ・様々な分野の先生との遠隔授業の計画・実践 ・教育センターからの遠隔授業の実践 ・学校間及びPTA，地域間の交流等の実践 ・地域人材の効果的な活用 </td></tr></table>																第1次 (平成18年度)	・校内組織の検討・確立 ・TV会議システムの利用に関する基礎的研修（5月） ・教育センターからの遠隔授業（効果的な活用場面の検討・実践） ・学校間及びPTA，地域間の交流等の計画・実践・検討 ・第1年次及び通算4年目の成果と課題のまとめ	第2次 (平成19年度)	・校内組織の確認（各学年担当者の設置と研修・連絡調整：5月） ・教育センターからの遠隔授業の効果的な活用 ・学校間及びPTA，地域間の交流等の実践（地域人材の活用の計画・実践・検討） ・第2年次の成果と課題のまとめ	第3次 (平成20年度)	・校内組織の確認（各学年担当者の設置と研修・連絡調整：5月） ・様々な分野の先生との遠隔授業の計画・実践 ・教育センターからの遠隔授業の実践 ・学校間及びPTA，地域間の交流等の実践 ・地域人材の効果的な活用
第1次 (平成18年度)	・校内組織の検討・確立 ・TV会議システムの利用に関する基礎的研修（5月） ・教育センターからの遠隔授業（効果的な活用場面の検討・実践） ・学校間及びPTA，地域間の交流等の計画・実践・検討 ・第1年次及び通算4年目の成果と課題のまとめ																					
第2次 (平成19年度)	・校内組織の確認（各学年担当者の設置と研修・連絡調整：5月） ・教育センターからの遠隔授業の効果的な活用 ・学校間及びPTA，地域間の交流等の実践（地域人材の活用の計画・実践・検討） ・第2年次の成果と課題のまとめ																					
第3次 (平成20年度)	・校内組織の確認（各学年担当者の設置と研修・連絡調整：5月） ・様々な分野の先生との遠隔授業の計画・実践 ・教育センターからの遠隔授業の実践 ・学校間及びPTA，地域間の交流等の実践 ・地域人材の効果的な活用																					

(8) 男鹿市立男鹿南中学校

学校名	男鹿市立男鹿南中学校							校長名	伊 藤 章				職員数	21		
所在地	男鹿市船川港南平沢字上大畑台 3 0							郵便番号	010-0521							
電話番号	0185-23-3241							FAX番号	0185-24-4947							
学級数	学 級 数							児 童 生 徒 数								
児童生徒数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特 殊	計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特 殊	計
	3	2	2				1	8	74	75	76				1	226
ホームページ	http://www.akita-c.ed.jp/~sch11267															
研究主題	学習効果を高めるTV会議システムの有効活用															
研究主題の説明（設定理由、研究の視点、研究の方法等）	本校は研究主題として「自己学習力を高める指導の工夫」を掲げており、生徒一人一人が分かる喜びや達成感を味わうための一つの方策としてモジュール学習に取り組んでいる。そこでTV会議システムを人材のモジュール化の有効な方法と位置づけ、個に応じた多様な学習活動を展開することで、分かる喜びや達成感を一層高めることができるのではないかと考えた。 研究はあくまでも「生徒一人一人の学習効果を高めるために、TV会議システムをどう活用するのか」ということに焦点をあて、各教科・領域・総合的な学習の時間等でTV会議システムを有効に活用していきたい。 過去4年間の実践で多様な活用方法が試されているので、今後2年間ではそれを類型化し深化させ、担当者が替わっても研究が継続するようなシステムづくりを心がけたい。															
研究体制	校 長 教 頭 TV会議システム 推進委員会 構成メンバー 教頭 研究主任 学年主任 総合主任 道徳主任 特活主任 TV会議システム推進委員の中心は研究主任とする。研究主任は生徒の実態に応じながら研究を推進する。 学 年 部 会 総 合 学 習 部 会 道 徳 部 会 特 別 活 動 部 会 教 科 主 任 会															

研究計画	第1年次 (平成18年度)	・研究組織の確立 ・研究計画の立案 ・転入職員向けの機器操作講習会の開催 ・遠隔授業の計画，打ち合わせ，実施，記録，次の計画立案 ・学校交流の計画，打ち合わせ，実施，記録，次の計画立案 ・授業改善の在り方の研究，第1年次の成果と課題，次年度の立案
	第2年次 (平成19年度)	・授業改善策の実施，反省 ・遠隔授業の計画，打ち合わせ，実施，記録，次の計画立案 ・生徒同士の学校間交流の計画，実施，記録，次の計画立案 ・多様な活用形態の類型化 ・第2年次の成果と課題，次年度の立案
	第3年次 (平成20年度)	・類型化された活用方法の深化 ・授業改善策の実施，反省 ・遠隔授業の計画，打ち合わせ，実施，記録， ・生徒同士の学校間交流の継続，記録， ・TV会議システムの効果と学力との関連性の検証 ・3年間の研究実践のまとめと紀要の作成

(9) 湯沢市立湯沢南中学校

学校名	湯沢市立湯沢南中学校							校長名	熊谷 仁志				職員数	30		
所在地	湯沢市南台 6 - 1							郵便番号	012-0867							
電話番号	0183-73-5145							FAX番号	0183-72-1184							
学級数	学 級 数							児 童 生 徒 数								
児童生徒数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特	計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特	計
	5	4	4				3	16	142	150	130				4	426
ホームページ	http://www.yutopia.or.jp/~minami/															
研究主題	T V会議システムの有効活用をめざした授業に関する研究 ～意欲を持って自ら学び続ける生徒を育てるために～															
研究主題の説明（設定理由，研究の視点，研究の方法等）	【主題設定の理由】 ・ T V会議システムを用い，多様な情報を提示（発表）したり，ディスカッション（質問・回答）したりする授業を展開することにより，生徒は，より多様な考え方や表現の仕方を身に付けるようになるであろう。そして，進んで課題に取り組むようになり，自ら学び続ける姿勢が身に付くようになると考えられる。 【研究の視点】 ・ T V会議システムを用いた授業を実践し，より「分かる授業」「楽しい授業」の実現に係る研究 ・ T V会議システムの特性を考慮した題材と学習課題を明確にし効果的な授業の進め方に係る研究 ・ 教科部会等での職員研修に係る研究 ・ 総合教育センターの人材や教育資源を活用した授業に係る研究 【研究の方法】 ・ T V会議システムを用いた遠隔授業，共同授業の実践 ・ T V会議システムを用いた研修会の設定															
研究体制	校長 教頭 職員会議 研究推進委員会 インターネットTV授業推進委員会 (校長，教頭，教務主任，研究主任，情報教育主任，教科主任長 6 名) ○ 授業の内容については，教科主任を中心に教科部で検討し実践研究を深めていく。授業の内容によっては全職員で研究を深める場を設定していくようにする。 ○ 授業だけではなく，各教科の研修の場を本システムを活用して設定し，その結果を授業に還元できるようにする。															

研究計画	第1年次 (平成18年度)	・研究組織の確立，研究計画の立案 ・TV会議システムの利用に関する基礎的研修 ・インターネットTV授業，交流等の計画立案 ・インターネットTV授業，交流等の実施と記録 ・教科部会等の研修の場として設定 ・第1年次の成果と課題のまとめ，次年度の研究計画の立案
	第2年次 (平成19年度)	・研究組織の見直し ・インターネットTV授業，交流等の計画立案 ・インターネットTV授業，交流等の実施と記録 ・インターネットTV授業のより効果的な実践の研究 ・第2年次の成果と課題のまとめ，次年度の研究計画の立案
	第3年次 (平成20年度)	・研究組織の確認 ・インターネットTV授業，交流等の計画立案 ・インターネットTV授業，交流等の実施と記録 ・センターの研修講座等への利用 ・3年間の研究実践のまとめ

Ⅲ 研究の実際

1 TV会議システムの利用回数

(1) 指導主事等が支援する授業

教科等	国語	社会	算数 数学	理科	生活	音楽	図工 美術	体育 保健体育	家庭 技術・家庭	英語	道徳	特別活動	総合的な学習の時間	特別支援教育	合計
回数															
平成15年度	22	7	24	57	3	10	9	14	8	6	0	7	15	4	186
平成16年度	42	10	25	75	7	9	15	16	20	16	1	11	10	8	265
平成17年度	41	16	48	72	2	16	17	11	14	12	1	9	12	11	282
平成18年度	33	8	33	59	1	8	5	5	4	2	0	2	3	4	167
平成19年度	27	21	46	112	0	3	11	3	1	3	0	4	4	3	238
合 計	165	62	176	375	13	46	57	49	47	39	2	33	44	30	1138

(2) 交流・共同学習

教科等	国語	社会	算数 数学	理科	生活	音楽	図工 美術	体育 保健体育	家庭 技術・家庭	英語	道徳	特別活動	総合的な学習の時間	特別支援教育	合計
回数															
平成15年度	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	5	6	0	14
平成16年度	11	6	0	3	5	2	0	3	1	0	1	6	4	4	46
平成17年度	20	20	0	9	2	0	0	3	0	0	0	3	13	3	73
平成18年度	3	1	0	2	5	0	0	0	0	0	0	1	0	1	13
平成19年度	10	2	2	1	1	0	0	2	0	0	0	2	0	1	21
合 計	45	29	2	16	14	2	0	8	1	0	1	17	23	9	167

(3) 相談や研修などの情報交換

教科等	国語	社会	算数 数学	理科	生活	音楽	図工 美術	体育 保健体育	家庭 技術・家庭	英語	道徳	特別活動	総合的な学習の時間	情報教育	生徒指導	特別支援教育	その他	合計
回数																		
平成15年度	21	6	16	34	3	10	5	9	11	6	0	2	12	1	1	6	4	147
平成16年度	35	5	25	53	3	12	14	15	7	7	6	16	10	1	0	6	26	241
平成17年度	34	17	51	41	0	16	14	7	8	5	1	4	9	1	6	5	20	239
平成18年度	19	9	31	28	1	6	5	4	5	1	6	2	4	2	3	2	2	130
平成19年度	27	8	39	12	0	3	8	5	1	1	0	1	2	0	1	3	4	115
合 計	136	45	162	168	7	47	46	40	32	20	13	25	37	5	11	22	56	872

2 TV会議システムの利用にかかわる各協力校の実践

(1) 鹿角市立十和田小学校

① 指導主事が支援する授業〈実践例1〉

- 1) 学校名，授業者名
 - ・ 自 校 鹿角市立十和田小学校 6年2組 高杉 毅
 - ・ 指導主事 秋田県総合教育センター指導主事 渡部 克宏
- 2) 教科，単元名（題材名）
 - ・ 社会科「武士の世の中をさぐる」
- 3) 本時の授業（交流・共同学習等）のねらい
 - ・ 織田信長，豊臣秀吉，徳川家康の業績についての発表を通して，3人の武将の違いや共通点をつかみ，全国統一がどのようになされたのか，考えることができる。
- 4) TV会議システム利用のねらい（必要性）
 - ・ 秋田県総合教育センターの指導主事に発表会に参加してもらい，感想や助言を述べてもらったり，児童が調べきれなかった内容について，質問に答えてもらったりする。これによって児童の発表に対する意欲の向上や3人の武将の業績について，さらに理解を深めることができる。
- 5) 本時の実際

	学 習 活 動	時間	センター指導主事の支援
導 入	1. 本時の学習課題をつかみ，学習の流れを知る。 3人の武将について調べたことを発表し合い，全国統一がどのようになされたかを考えよう。	0	・ 発表に対する意欲付けをする。
展 開	2. 3人の武将について調べたことを発表し合う。 ①信長コースの発表 ②秀吉コースの発表 ③家康コースの発表	3	
ま と め	3. 発表についての感想や質問などを出し合う。 4. テレビ会議システムを使って，総合教育センターの指導主事から，感想や説明などを聞く。 5. 学習のふり返しをする。	3 0 3 5 4 2	・ 児童の質問に対して答える。 ・ 発表についての感想や助言を述べる。

6) 実践を通しての提言

- ・ 発表の内容がとても多かったため，児童同士の意見交換や児童からの質問に指導主事からの説明に十分時間をとることができなかった。事前の計画や，打ち合わせの際に時間配分を考えなければならない。

② 指導主事が支援する授業の実践〈実践例1〉

- 1) 学校名，授業者名
 - ・ 自 校 鹿角市立十和田小学校 1年1組 高田 暁子
 - ・ 指導主事 秋田県総合教育センター指導主事 伊藤 互
- 2) 教科，単元名（題材名）
 - ・ 算数科「ふえたり へったり」
- 3) 本時の授業（交流・共同学習等）のねらい
 - ・ 3口の数の加減混合の式の意味とその計算のしかたを理解し，その計算ができる。
- 4) TV会議システム利用のねらい（必要性）
 - ・ 子どもたちが，秋田県総合教育センターの指導主事に自分の考えを聞いてもらい，感想や助言を述べてもらったり，計算の仕方をわかりやすく説明してもらおう。これによって子どもの発表に対する意欲の向上や計算の仕方について理解を深めることができると考える。



5) 本時の実際

時間	学習活動と児童の動き	教師の支援及び評価	センター指導主事の支援	備 考
2分	1. センターの先生（さんすうはかせ）と挨拶をする。	・初めての顔合わせなので、元気に挨拶ができるよう、声をかける。	・短く自己紹介をしていただく。	・ 掲示用課題
8分	2. 場面絵を見てお話を聞き、題意を捉えて立式する。 ねこはなんびきになりましたか。 ($5 - 3 + 2 =$)	・場面絵に合わせて算数ブロックを操作しながら、式を書くことで、1つの式に表してよいことに気づくようにする。		
8分	3. 計算の仕方を考え、発表する。 〈予想される発表〉 ・ $5 - 3 + 2$ という式になりました。 ・ 最初に5匹いて、次に3匹降りて、そのあと、2匹乗ったので、この式になりました。…など	・さんすうはかせに聞いてもらうことを考えて、はっきり話すように励ます。 3口の数の下限混合計算について、既習の加法や減法の考え方を適用して、発展的にとらえている。(観察・発言)	・発表を受けて、よいところを賞揚していただく。	
5分	4. さんすうはかせに、みんなの計算の仕方をTVでわかりやすくまとめていただく。	・計算の仕方をみんなで確認する。	・TV画面をとおして、パワーポイントなどを使って、加減混合の計算の仕方をわかりやすく提示していただく。	・ 練習 プリント
2分	5. さんすうはかせとおかわれの挨拶をする。	・元気な声で挨拶ができるよう、声をかける。		
20分	6. チェック問題や練習問題を解く。	・机間指導をし、個に支援する。		

6) 実践を通しての提言

- ・ 1時間いっぱいつないでいるのではなく、指導主事には必要なところだけピンポイントで説明してもらい、その後はじっくり習熟の時間としたため、効率的に学習することができた。

③ 交流・共同学習の実践例

- 学校名、授業者名
 - ・ 自 校 鹿角市立十和田小学校 椿田真貴子 浅利まゆみ 大畑 司
 - ・ 相手校 大仙市立東大曲小学校
- 教科、単元名（題材名）
 - ・ 生活単元 「クリスマス交流会をしよう」
- 本時の授業（交流・共同学習等）のねらい
 - ・ 他校の友達と会話や自己紹介をすることによって、他との関わり方を知り、関わる楽しさを味わうことができる。
 - ・ 協力して発表したり、自分の得意なことを意欲的に表現したりすることができる。
 - ・ 他校の友達のよさを見つけることができる。
- TV会議システム利用のねらい（必要性）
 - ・ 他校の友達とテレビや機器を通して交流できることを理解する。
 - ・ 相手の様子を見ながら受け答えなどを考えて自己表現ができる。
 - ・ 協力して自分たちの発表をしたり相手の発表を見たりしながら、友達のよさを見つけることができる。

5) 本時の実際

学習活動	支 援
司会 1～3 東大曲小 4～6 十和田小 1 はじめのあいさつ 東大曲小 2 自己紹介をする十和田小→東大曲小 3 発表 (これまで頑張ってきたこと・教 たいこと) 東大曲小→十和田小 4 歌を歌う 「あわてんぼうのサンタクロース」 5 終わりのあいさつ 十和田小 6 さようなら 東大曲小	・原稿を見ないで、TVに顔を向けて話すことができるようにする。 ・恥ずかしがらずに話すことができるように励ます。 ・これまで頑張ってきたこと・教たいことを意欲的に発表できるようにする。 ・相手校の発表に対してよかったことなど感想を一言持てるようにする。 ・教師も一緒に歌い、できれば楽器なども入れて、元気に楽しく盛り上げる。(打楽器など)

6) 実践を通しての提言

- ・いつもと違う場所での授業であり、直接合って学習を進めていく、ということができないため、場所ややり方に慣れておく必要があった。
- ・事前打ち合わせの時間がほとんどなく、学習の流れや質問等についての共通理解不足もあり、場の雰囲気を盛り上げていくことができなかった。
- ・障害の程度が異なるため、児童相互理解や共通理解できる学習内容の設定が難しいと感じた。



④ 成果と課題

1) 成果

- ・指導主事にあるコースの児童を担当してもらい、1 C 3 Tが可能となり個に応じた学習活動ができた。
- ・学校探検の最終目的として他校の友達に学校紹介をすることで、目的をもった活動ができた。また、互いの情報を紹介し合うことで、自校・他校のよさや違いに気づき、愛校心の育成につながった。
- ・話す、聞く単元でTV授業はとても有効である。積極的に話そうと、しっかり見たり聞いたりして質問・感想を述べようという意識がわく。
- ・実際に料理を作るところを見せていただいたことで、実習に見通しができた。指導主事から直接アドバイスをもらい、TTでの授業が可能になった。意欲的に取り組んだ。
- ・指導主事とTVを通して直接対話できるので、充実した検討会を行うことができた。質問等については、即座に回答してもらえるので余計な時間がかからずすんだ。
- ・子どもたちの学習意欲が引き出された。センターの資料を活用することができた。

2) 課題

- ・長時間を要する単元は、単元全体を通して数回センターの指導主事に関わっていただくよう指導計画を立てていきたい。
- ・相手に分かりやすく伝えるために、声の大きさや間の取り方などについて考えさせながら表現活動に取り組んでいきたい。
- ・交流学习では、自分たちの考えと比較して思考する力が育つと思われるので今後も活用していきたい。

(2) 大館市立山田小学校

① センターの指導主事と連携した授業の実践例 1

- 1) 学校名, 授業者名
大館市立山田小学校 1年 石井 真理
- 2) 教科, 単元名(題材名)
たのしくつかおう 「かんじのはなし」
- 3) 本時の授業のねらい
漢字の成り立ちに興味を持って読んだり書いたりすることができる。
- 4) TV会議システム利用のねらい(必要性)
 - ・漢字の成り立ちを動画で説明してもらうことで、漢字への興味・関心を高めることができる。
 - ・センターの先生と楽しく交流することでコミュニケーション力を高めることができる。
- 5) 本時の実際

学 習 活 動	センターの支援
1 センターの先生とあいさつと自己紹介をする。	◇自己紹介をしてもらう。
2 漢字のでき方の動画を見て理解する。	◇動画を使って漢字のでき方を説明していただく。
3 絵と漢字をあわせるゲームをする。	◇子ども達の解答を判定してもらう。
4 「わたしはだれでしょうクイズ」を出し合う。	◇子ども達の出すクイズに答えたり, 子ども達にクイズを出題してもらったりする。

6) 実践を通しての提言

教科書の挿絵だけよりも動画の方が絵から漢字へ変化していく様子が分かりやすかった。動画と一緒に先生に説明していただけるのもインターネットテレビならではの。

また、画面を通して初対面の先生とも臆せず交流し自分を表現するのもインターネットテレビでなければできない活動であった。



② 交流・共同学習の実践例

- 1) 学校名, 授業者名
大館市立山田小学校 5・6年 佐藤 民志
六郷東根小学校 東大曲小学校 栄小学校 鶴舞小学校
- 2) 教科, 単元名(題材名)
社会科 「長く続いた戦争と人々の暮らし」
- 3) 本時の授業(交流・共同学習等)のねらい
「花岡事件」はどんな戦争だったか考えることができる。
- 4) TV会議システム利用のねらい(必要性)
戦争体験者の話を聞くことが難しい状況になってきた。山田小学校では, 悲慘な戦争の状況を伝える「花岡事件」に関わる話を地域の方から聞くことができる。TV会議システムを使うことでそれを共有する事ができる。
- 5) 本時の実際

学 習 活 動	支 援
1 学習課題を確認する。 「花岡事件は, どんな事件だったのか。」	・ 事前に課題を書き, 明示できるようにしておく。
2 ビデオを見る。	・ A B S 秋田放送制作「花岡事件」を見せる。
3 ゲストティーチャーから, 花岡事件のお話を聞く。	・ 戦争というものの悲慘さが伝わるような話の内容になるよう, 事前をお願いする。
4 ゲストティーチャーへ質問する。	・ 疑問に思った事をメモするよう助言する。
5 感想を発表する。	・ 質問をする学校以外はマイクをOFFにする。
	・ 発表の準備ができた人から, どんどん発表させる。

- 6) 実践を通しての提言
ビデオや教科書を見るだけでは, 理解することができない戦争中の状況について, ゲストティーチャーから直接, 話を聞くことができた。地域の優れた教材を他校と共有できるよさがある。
小規模校では, 質問することが限られてくるので, 多地点で結ぶことにより, 質問に広がりが見られ, よかった。



③ 校内研修での活用例

1) 研修内容と指導者

- 受講者 山田小学校教職員 8 名
「クロッキーの描かせ方」
指導者 田村指導主事
「教育相談に生かすカウンセラーの技法」
指導者 安田指導主事

2) I T V 会議システム利用のねらい

- ・センター先生の専門性を生かした指導を受け、実技指導の充実を図ることができる。
- ・児童に関わって行く際の基本的な姿勢、手だてを学ぶことができる。

3) 実践を通しての提言

- ・演習をし、その様子を見ていただきながら研修することができ、センターで研修を受けるのと変わらない内容の濃い研修をすることができた。
- ・リアルタイムで質問でき、日頃の悩み、課題をその場で解決することができ、研修を深めることができた。
- ・専門家の技を時間の負担をかけず学ぶことができた。
- ・ペンタブレットの使用でわかりやすい研修ができたのも、I T V ならではのと思う。

④ 成果と課題

1) コミュニケーション能力を高めるための活用

- ・小規模校どうしの交流は、子どもどうしの関わりも多くなり、互いに意見を求め合ったり、感想を述べ合ったりと交流を深めることができた。
- ・わかりやすく相手に伝えようと発表の仕方を工夫したり、まとめ方を考えたりと相手を意識しながら活動することができた。
- ・センターの先生や他校との交流でコミュニケーション能力や表現力を高めることができた。

2) I T V 共同授業研究会

- ・小規模校どうしなので相手校の授業を通して、自分たちの授業を振り返ることができ、今まで見えていなかった新たな課題を見つけることができ、研修を深めることができた。
- ・授業参観だけでなく、研究協議にも参加し意見交換ができたことは有意義だった。
- ・自校にいながら県南の方の授業研究会に参加でき、いろいろな面での負担が解消され魅力的だった。

3) 保護者や地域の人々への活用

- ・ゲストティーチャーとして地域の方を招いての「15年戦争」の授業は、他校からも好評で、5 地点を接続して実施できた。質疑応答したり感想を述べたりと有意義な時間だった。5 校で交流を深めるなど I T V のよさを生かした授業であった。

4) 教師の授業力向上

- ・国語科の授業でセンターの先生に入ってもらい、専門的な部分で関わってもらったことで授業の質を高めることができた。児童の活動にも広がりがあった。

⑤ 次年度に向けて

- ・引き継ぎ校との引き継ぎ事項を検討していく。

(3) 由利本荘市立鶴舞小学校

① センターの指導主事と連携した授業の実践例

1) 学校名，授業者名

由利本荘市立鶴舞小学校 6年竹組 佐藤美由紀

2) 教科，単元名（題材名）

図画工作科 「見つけたよ わたしの町のこの風景」

3) 本時の授業のねらい

どのようにふるさとを表現したいのかという自分の思いを生かして，選んだ風景を描くことができる。

4) TV会議システム利用のねらい（必要性）

専門的な立場から筆づかいや色づかいを紹介してもらうことで，児童が自分の思いを効果的に表現することを可能にし，また実際に作品を見て助言をもらうことでよりよい作品を仕上げるができる。

5) 本時の実際

学 習 活 動	支 援
1 本時のめあてを確認する。 2 センターの先生から，色の塗り方や筆づかい等表現の工夫について教えていただく。 3 指導された技法を参考にし て絵を描く。 4 書画カメラを活用して絵を見せ，どんな構成で描いたのか，困っている点はどこか等を相談する。 5 センターの先生のお話を聞く。	・実際に筆を使って演示しながら，川の流れ，山，草等の描き方や遠近感の表し方を紹介する。児童から質問が出た場合は，それに答える。 ・画像に映し出された児童の作品を見ながら，アドバイスをする。 ・学習に対しての取り組み方や今後留意したらよいことについて話す。

6) 実践を通しての提言

- ・筆の使い方や色の塗り方を専門的に指導してもらうことで，児童の表現の幅が広がった。また，メディアサイトを活用することで，筆の使い方がより分かりやすくなった。
- ・テレビ会議システムを活用することで，絵を見せながらリアルタイムで助言してもらうことができ，自分の思いを伸び伸びと表現することができた。



② 交流・共同学習の実践例

1) 学校名，授業者名

自 校 由利本荘市立鶴舞小学校 2年 担当：中村寛司
相手校 鹿角市立十和田小学校 2年 担当：長内幸子，川又夕起

2) 教科，単元名（題材名）

国語科 「あったらいいなこんなもの」

3) 交流・共同学習のねらい

聞き手に分かるように順序よく話すことができる。また，話し手が伝えたいことを意識しながら聞くことができる。

4) TV会議システム利用のねらい（必要性）

他の学校の友達と発表し合うことで，学習に対する興味・関心を高めることができるのではないかと考えた「あったらいいなというもの」を他の学校の友達に知らせる活動では，TV画面越しの聞き手に対してより伝わるように声の大きさや速さ，話す事柄の順序を意識して話すことができるのではないかと考えた。さらに他の学校の友達の発表を聞く際には，話し手が伝えたいことをより意識して聞いたり，内容に沿った質問をしたりもできるのではないかと考える。

5) 本時の実際

学 習 活 動	支 援
1 課題を確認する。	・活動にずれが生じないように，共通の課題を設定する。 ・話し方，聞き方についてのめあてをもたせる。
2 発表し合ったり，質問し合ったりする。	・発表する児童の姿や提示する絵が相手に大きく見えるよう，機器の使い方を工夫する。
3 感想交流をする。	・次もまた交流したいなという期待をもたせて終わるようにする。

6) 実践を通しての提言

- ・他校の児童と交流することで，新しい発見があり，自分たちの見方や考え方が深まったり広がったりする。
- ・他校の友達に発表するという目標をもたせることができ，児童の意欲はより高まってくるし，新鮮な気持ちで発表をすることができると思う。

③ 教育相談での活用例

1) 学校名，授業者名

由利本荘市立鶴舞小学校 4年 伊藤雅代，大山知己，高橋寿喜子

2) 教科，単元名（題材名）

算数科 「小数」

3) 相談内容

授業研究会の実施に当たり，単元計画や本時の授業について指導助言をいただく。

4) TV会議システム利用のねらい（必要性）

指導案検討会の際，指導主事の先生に専門的な立場で指導をいただくことで，授業技術の向上と校内研修の活性化に役立つ。

5) 実際

- ・問題解決的な学習活動の充実を図るために、まとめを意識した課題を提示すること、既習の学習内容を活用させながら新しい方法を創り出させること、定着のための適用問題を工夫することが大事である。
- ・本時の課題に対して、どのように自分が高まったかを振り返ることが大事である。

6) 実践を通しての提言

- ・学校外部の専門的な指導者にも学習指導案を見ていただき、指導助言をいただくことで、自分たちの研究が深まり、授業改善につなげることができる。
- ・TV会議システムを活用することで、リアルタイムに相談することができる。

④ 成果と課題

1) 成果

- ・昨年度以降、TV会議システム専用の教室を確保したことで、主体的に利用しようとする先生方が多く、効果的な活用ができるようになってきている。また、周辺機器の積極的な活用も見られるようになってきている。
- ・総合教育センターが関わる授業では、算数と図工が多かった。算数では、TTの一人として指導主事の先生に授業に入ってもらうことで、児童の理解度に応じてきめ細かく指導することが可能となっている。また、図工では専門的な技術を教えてもらったり、作品に対して助言をしてもらったりすることで児童の創作活動の幅が大いに広がってきている。
- ・低学年を中心に発表会的な交流学习を行うことで、発表意欲を喚起し、話す力や聞く力を育てることができた。
- ・今年度、公開研究会を実施するに当たって、教科相談の機会が昨年度よりも増えてきた。より専門的な立場で授業に対する助言をいただくことで、研究が深まり指導技術も向上してきている。



2) 課題

- ・交流学习では、互いのねらいを十分に達成させることは難しいと感じた。発表会的な交流の場合、本校のような規模では、聞き手になる児童が非常に多くなってしまう。また、共同学習的な場合は、単元全体を通しての交流となるため、時間の調整が難しくなる。その反面、6年生の社会のような内容であれば、気軽に交流することができ、ありがたい。
- ・共同研究会を実施することができなかった。実施する場合の研究の視点が難しいように思われる。
- ・1単位時間（45分）すべて接続するのではなく、必要なときに接続するようにしていけば、活用の幅はますます広がるのではないかと。

(4) 大仙市立東大曲小学校

① 指導主事が支援する授業の実践例

1) 学校名，授業者名

・大仙市立東大曲小学校 3年 根布谷 隆

2) 教科，単元名（題材名）

・音楽科 「リコーダーにしたしもう」

3) 本時の授業のねらい

・リコーダーによる美しい音出しのための基本的な操作ができる。

4) TV会議システム利用のねらい（必要性）

・センター所有の楽器（リコーダー）の演奏をTV会議システムを通して聴くことができる。また，センターの先生からは，ふき方や指使いの基本的な操作方法を具体的に即時応答で教えていただける。音声や画像などの情報を互いに送りあう双方向性を生かして，個々にあったきめ細かな指導を受けることができる。

5) 本時の実際

学 習 活 動	支 援
1 ドレミファソの音出しから課題をつかむ。 2 どうすればよい音色になるか自分たちの考えを出し合う。 3 リコーダー名人から教わろう。 4 いっしょに演奏しよう。	○3の活動からセンターの指導主事に支援を頂く ・種類の違うリコーダーを演奏する ・姿勢やふき方，指使いについて指導 ・簡単な曲を児童と一緒に演奏する

6) 実践を通しての提言

指導主事（音楽科）によるリコーダーの実演があり，運指や音色をリアルタイムで見て聞くことができた。リコーダーの種類も紹介され，児童はその音色の美しさに驚いていた。リコーダーの演奏ワンポイントレッスンがあり，一人一人がアドバイスをいただいたおかげで，児童は集中して練習をすることができた。名人からのお褒めの言葉もいただいて，ますますやる気がでてきた。



【演奏を聴きながら運指を見る】



【種類の違うリコーダーで生演奏】

② 交流・共同学習の実践例（特別支援学級同士の交流学習の試み）

1) 学校名，授業者名

- ・ 自 校 大仙市立東大曲小学校 特別支援学級 草薨真智子 水品 智
- ・ 相手校 鹿角市立十和田小学校 特別支援学級

2) 教科，単元名（題材名）

- ・ 学級活動「クリスマス集会をしよう」

3) 本時の授業のねらい

- ・ 他校の友達と会話や自己紹介をすることによって，他との関わり方を知り，関わる楽しさを味わうことができる。
- ・ 協力して発表したり自分の得意なことを意欲的に表現したりすることができる。

4) TV会議システム利用のねらい（必要性）

- ・ 十和田小のお友達と久しぶりに出会い，いろいろな活動をする中で，モニターを通して互いに成長した姿を見つけることができる。相手の表情を確認できる対面性から，相手に対して明確な目的意識を持ち，それが意欲的な表現活動にかわり，喜びにつながる。

5) 本時の実際

学 習 活 動	支 援
1 はじめのあいさつ 2 自己紹介をする。 3 発表 朗読劇 東小「王様の耳はロバの耳」 4 歌を歌おう 「あわてんぼうのサンタクロース」 5 おわりのあいさつ	○恥ずかしがらずに下を向かないで画面を見て話すことができるように声かけをする。 ○これまで頑張ってきたこと，教えたことを意欲的に発表できるように声かけをする。 ○教師も一緒に歌い，楽器なども入れて元気に楽しく盛り上げる。

6) 実践を通しての提言

十和田小学校の特別支援学級の交流では，4年目を迎えている。児童達の障害の程度にもよるが，相手を意識しての表現活動は，自分をよりよく高め，やり終えたときの達成感などがあり，自信につながっていると思われる。

モニターに映るお友達との再会で，いささか興奮気味の児童もいたが，名前を呼び合ったりする光景からは，その嬉しさが伝わってくる。事前に参加する児童の名前と顔写真をメール交換したことが良かった。

学校間の担当者同士が，忙しい合間を縫って計画を進めるわけで，行き違いのないように連絡調整を行いたい。電話やFAXで確認し合うように進めてきた。



③ I T V共同授業研究会の実践例

1) 学校名，授業者名

- ・ 自 校 大仙市立東大曲小学校
- ・ 相手校 横手市立栄小学校

2) 教科，単元名（題材名）

本校からは，2教科の授業を配信した。

- ・ 算数科 6年「ならして比べよう（平均）」 黒川ほう子
- ・ 国語科 4年「自分の考えをまとめて」～今週のピカいちニュース～ 小松由美子（栄小学校の研究授業では，国語科と社会科を配信していただいた。）

3) I T V共同授業研究会の本校のねらい

- ・ 指導主事を招いての研究授業を，インターネットTV会議システムを介して，授業を参観し，その後の研究協議会にも参加させていただくことで，他校の教科研究への取り組みを知ると共に，小学校教師としての授業力向上に役立てる。

4) 実践を通しての提言

- ・ 生の授業を見て，よい点を学び自分たちの研究や授業に生かすことができる。
- ・ 自校に居ながら他校の研究会（実践）を観ることができるのは，画期的であった。
- ・ 何よりも授業を見せ合い，互いに気づいたところを伝えながらの研修は，教師の今後の授業力向上に生かせるものであった。指導主事からの指導・助言をより大勢で聞けることがとてもよかった。
- ・ 授業を観てからの，感想や質問事項を相手校にFAXで送り，研究協議会の中で回答をいただくことができてよかった。
- ・ 学習指導案は，なるべく早めにメールで送ってもらい，事前研究しておくことがよい。
- ・ あらかじめ，授業で使う提示資料や児童の学習カードなどをFAXで送っていただくと，指導案にある活動内容がよくわかる。
- ・ 固定されたカメラでは，児童の活動している様子がよく見えない場合があるので，カメラ操作やマイクなどは移動がほしかった。
- ・ 指導主事が持参した資料があるとするならば，研究協議会の前に相手校へFAX送信したい。

④ 成果と課題

1) 成果

- ・ 授業交流では，時間内に自分の考えや思いを分かってもらうために，何をどう工夫すれば伝わるかという課題が生まれる。互いに相手の工夫やよさに着目し，いろいろな表現方法があることも分かり，目的にそった交流ができた。
- ・ TV授業をする際，センター指導主事の先生や相手校との事前打ち合わせをすることで，教師自身の授業改善の意識が高まった。
- ・ 特別支援学級の交流では，なかなか集中力が持続しない児童も，相手がどんな発表をしてくれるのか楽しみでテレビの画面をしっかりと見つめていた。

2) 課題

- ・ I T V共同授業研究会では，本校と横手市立栄小学校の2校で行った。学び得るものが多かったのですが，もっと他校の授業研究会に参観したいと思う。多地点による配信方法で実施できないだろうか。新年度に配られる各校の指導主事訪問一覧を参考にして計画をしたいと思う。

(5) 横手市立栄小学校

① 指導主事等が支援する授業の実践例（その1）

1) 学校名，授業者名

・横手市立栄小学校 授業者 大石 照彦

2) 教科，題材名

・第5学年社会科 「水産業のさかんな地域をたずねて」（本時 1／7）

3) 本時の授業のねらい

・魚の名前や漁場，漁港について調べる活動を通し，普段食べている水産物について関心を持ち，水産業について調べてみようとする意欲を持てるようにする。

4) TV会議システム利用の必要性について

・子どもたちにとって身近ではない水産業について取り扱うときに魅力的な資料が見つからなかった。特に導入段階では，資料の力が子どもの関心意欲を高めたり，学習に必要な感を持たせるために大事になる。このようなときに，指導主事の力を借りることができるTV会議システムは現場の大きな助けになる。

・また，指導に当たって迷っている点があるときも打合せの段階で相談できることが有効である。

5) 本時の実際



学習活動と教室での支援	センター指導主事の支援
1. 「お魚クイズ」を考える。 ○回答者を指名し，解答を板書する。 ○魚についてのつぶやきも拾っていく。 2. 教科書P35の資料を見て，資料から読みとれることを発表する。 ○資料名，出展，記号の意味，単位をおさえる。 ○①<u>漁港</u>と水あげ量 ②<u>海流</u>についての発言を取り上げ，次の学習活動につなげていく。 3. 学習課題を設定する。 魚は，どんなところで多くとれるのだろうか？ 4. 水あげ量の多い<u>漁港</u>ベスト5とそのあたりではどんな<u>水産物</u>がとれるのか調べる。 5. <u>暖流</u>・<u>寒流</u>と<u>漁場</u>について説明を聞く。 6. 魚は，どんなところで多くとれるのかを考え，発表し合う。	1. 「お魚クイズ」を出題する。 ○アニメ「サザエさん」に関連づけたクイズ ○日本人が一番食べている魚のクイズ等 2～4. 待機 教えてください！ 教師用指導書には，「ここがポイント！」として「成田漁港」についてふれていましたが，私はこの時間ではあえて取り上げる必要はないと考えます。「輸入」の話題が出る段階で取り上げたいのではないかと考えていますが，いかがでしょう。（打合せの時に相談した点） 5. 暖流と寒流，漁場・潮目について説明（視覚に訴えるような資料を使って） 6. 子どもの発表を聞いて付け足したいことなどがあるときはヒントの提示をする。

② 指導主事等が支援する授業の実践例（その2）

1) 学校名，授業者名

・横手市立栄小学校 授業者 渡部芳子

2) 教科，題材名

・第5学年理科 「もののとけかた」（本時 1／13）

3) 本時の授業のねらい

・食塩のとけ方に興味を持ち，食塩のとける様子や食塩水の様子を観察することができる。

4) TV会議システム利用の必要性について

・学校にはない電子顕微鏡を使い，食塩の粒が溶けていく映像を見ることができる。

・専門的な概念「理科でいう溶けるとは」を指導主事の説明でとらえることができる。

5) 本時の実際

学 習 活 動	センターの指導主事の支援
1. 生活の中で、物を溶かした経験を話し合う。 ・溶ける前の様子や溶けた後どうなったか。 ・食塩の溶ける前の様子と溶けた後にどうなったか。 2. 本時の学習課題を確認する。 (1) 食塩の粒を虫眼鏡で観察する。 (2) 溶ける様子を予想する。 (3) 食塩が水に溶ける様子を観察する。 食塩は水に溶けるとどうなるのか調べよう。 3. 観察の結果をもとに、食塩の粒は水の中でどのようになって溶けているか考える。 4. 本時の学習のまとめと振り返りをする。	・理科でいう「溶ける」とはどういうことなのかを押さえる。 ・電子顕微鏡を使って、食塩がとける様子と小麦粉が水に混ざる様子を提示し、比較する。

6) 実践を通しての提言…実践例その1, その2を合わせて

- ・指導主事の高い専門性は現場の教師の大きな力となる。ＩＴＶではその貴重な力を学校でリアルタイムで活用できることはすごい機会に恵まれていることである。
- ・現場では子どもを引きつける有効な資料をさがすのに苦労している。そんなときに指導主事へ相談できるので本当に助かっている。

③ 交流・共同学習およびITV共同授業研究会の実践例

1) 学校名, 授業者名

- ・自校 横手市立栄小学校 5年社会科
- ・相手校 大仙市立東大曲小学校 6年算数科・4年国語科

2)活動の内容

- ・お互いの学校の指導主事訪問研究授業を配信し、リアルタイムまたはビデオ録画により参観した。
- ・大曲東小学校の国語科指導主事訪問の研究会に I T V を使って参加し、研修することができた。

3) TV会議システム利用のねらい

- ・出張することなく、他校の研究授業及び研究会に参加することによって研修を深め、自校の研修や日常の指導に生かす。
- ・他校の先生に参観して頂き、ご意見をFAX、メールで頂くことにより、研修の参考にする。

4) FAXによる意見交換の実際

インターネットTV授業（算数科授業参観）

平成19年6月19日（火） 栄小学校から大曲東小学校へ

○導入（つかむ）

すっとうっていました。無駄がなくよかったです。

○展開（追求する）

- ・1枚目の問題にすごく時間がかかっていたようです。(2)の問題から入っていたらよかったのではないかと思います。
- ・子どもたち同士で話し合いをしている様子がよく聞こえませんでした。どのようにして答合わせをしているのかな？と思いました。

○終末（まとめる）

- ・④の問題に対する話し合いはおもしろかったです。「平均＝合計÷個数」という一般化された公式を学んだ後だったので、「合計」「個数」という言葉をキーワードにして説明を考えさせたらさらにすっきりしたと思いました。

- ・時間をかなりすぎていたのが気になりました。振り返りの活動は必要だと思いますが、時間がかなりすぎていたので、授業としては終了した方がいいと思いました。

【感想】

- △ カメラが一箇所だと、やはり教師の支援が分かりづらいです。I T V授業参観（研究）に適している授業展開、適していない授業展開というものがあると感じています。単元や授業の構成等、検討が必要ではないかと思います。
- 研究会の様子も発信して頂いていたので、指導主事のお話も伺えてよかったです。特に、「発展的な学習」の意味について学ぶことができてよかったです。
- 自分の考えに理由付けして発表する姿に、日頃の指導の成果を感じました。
- △ 全員が取り組んだチャレンジ問題とその後の問題のつながりがあれば、自分が苦手とする問題に数多く取り組むことができたのではないかと思います。
- △ 単元の最後の時間なので、平均を使うよさが実感できる問題や平均を実生活で活用してみる活動があればよりよかったですと思いました。
- ? レディネステスト②で無回答の子どもが1名いたようですが、その子への手だてはどのようなものだったのか気になりました。
- ? ヒントカードはどのようなものを用意したのか知りたかったです。

5)実践を通しての提言

- ・研究授業，研究会での交流は研修の機会を増やす上では大変有効だと感じている。
- ・ただし，定位置のカメラでは子どもの様子や個別指導の様子がよく見えないので，ハンディタイプのビデオカメラを使うなどの工夫が必要となる。
- ・研究会に参加できなくても，F A Xやメールでの意見交換によって貴重な意見の交換ができることが分かった。研修会に参加する時間の余裕がない時もこれなら交流ができる。

④ 成果と課題

1)成 果

- ・今年度は，「毎月ひとり一回のI T V授業」を合い言葉に，実践に取り組んだ。回数を重ねることで，I T Vに対する教師同士の関心も高まり，お互いにアドバイスし合う姿も見られた。
- ・校内で参観し合う機会を持ち，校長や教頭にも意見をもらって実践してきた。全教員での推進という雰囲気が出来上がってきている。
- ・いつも目につくように，職員室前の廊下に『今月のI T V授業・会議』コーナーを設置し，予定を書きこんだ黒板や略案をファイルしたものを置いて，誰でも見られるようにしたこと，教師の意識や関心も高まった。
- ・授業実践後に，センターに提出した略案に感想や修正案を書きこみ，廊下のファイルに入れておくことで来年度同じ授業をする時の参考にできるように工夫した。
- ・東大曲小学校さんの積極的なお誘いにより，初めて校内研究会での活用を試行できた。やってみるといろいろな課題もあったが，お互いの学校にとって有効な研修の一手法であることに気がついた。時間のやりくりと事前の綿密な打合せがポイントのような気がする。

2)課 題

- ・どの教科の，どの単元の，どの部分で活用したら，手軽にかつ有効に利用できるなのか，未だ手探りの状態である。地道な実践と資料の蓄積が大切なことを実感している。
- ・去年の自校の課題を受けて，I T V常設の教室を整備したが，便利だという意見も聞かれる一方で，内容や学年に合わせて各教室や活動場所での利用も多かった。カメラさえ移動すればどこでもできるのがI T Vのよさでもあるので，いつでも動かせる体制にしておく必要もあると感じている。
- ・横手市内で唯一の設置校であることを考えれば，もっと他校や地区の研修に役立てることはできないものかと考えている。横手市教育推進委員会の各教科・領域部会に働きかけてみようかとも考えているが，そのためには何ができるか具体的に提示することが必要になる思い，二の足を踏んでいるところもある。

(6) 美郷町立六郷東根小学校

① 指導主事が支援する授業の実践例

1) 学校名，授業者名

美郷町立六郷東根小学校 2年 深谷ゆき

2) 教科，単元名（題材名）

算数 「九九名人になろう」



3) 本時の授業のねらい

5のだんの九九を活用し，いろいろな問題を解決することができる。

4) TV会議システム利用のねらい（必要性）

学習のまとめとして，児童が問題を解いていく中で，コース別に分かれたときに一つのコースを担当してもらうことにより，理解の早い児童は発展問題に挑戦していくことができる。また，学級内だけではなくセンターの指導主事に自分の考えを話すことによって，話し方の練習や学習内容の理解が深まっていくと考える。

5) 本時の実際

学 習 活 動	支 援
1 あいさつと自己紹介する。 2 前時までの復習をする。 3 本時のめあてを確認する。 4 問題を解く。 ・全員で「じっくりコース」に取り組む，できた児童は「どんどんコース」に取り組む。 5 本時の振り返りをする。	・緊張がほぐれるような言葉をかける。 ・前時までの復習問題を全体に出す。 ・「じっくりコース」ができ，「どんどんコース」にすすんだ理解の早い児童に対応する。 * 事前に発展問題である「どんどんコース」の問題を作成する。 ・本時を振り返っての感想や助言をする。

6) 実践を通しての提言

画面からリアルタイムで問題が出され，ほめてもらうことによって児童の学習意欲が高められる。また，理解の進度の違いに対応できるので充実した時間の中で理解が深められる。個々に対応が可能なので，表現力やコミュニケーション能力も身に付く手立てとなる。

② ITV共同授業研究会の実践例

1) 学校名，授業者名

- ・美郷町立六郷東根小学校 算数科指導主事計画訪問
授業者（1年 高橋説子 3年 伊藤慎之）
- ・大館市立山田小学校 教員

2) 教科, 単元名 (題材名)

1 年「ひきざんランドへ レッツゴー! ～めざせ! ひきざんマスター～」

3 年「かけ算のしかたを考えよう ～かけ算マスターになって, 生活の中でかけ算をしよう!～」

3) TV会議システム利用のねらい(必要性)

相手校に授業を参観してもらい, その後, 授業研究会で意見や感想をいただくことにより, 多様な考え方を知ることができ, 教師の資質向上, 授業改善を進めるうえで有効である。



4) 実際

- ・学習指導案や授業で使う学習シート, 日程や職員名簿を事前に送り, 簡単な打ち合わせをテレビで行った。
- ・当日の1コマ目の授業が終わった後, カメラとマイクの位置が適切であったか相手校に確認の電話をした。
- ・参観授業が全て終わった後, 事前に送っていた感想質問用紙に記入してもらい, 協議会までに返信してもらった。
- ・協議会では, 意見交換をしたり, 指導主事からの助言を聞いたりした。
- ・協議会の後, 指導主事からいただいた資料を送った。

5) 実践を通しての提言

指導主事だけではなく, 他校の教員に参観してもらったり, 協議会に参加してもらったりすることは本校のような少人数の教員集団にとって多様な意見をもとに考えさせられるよい機会となる。

授業の様子や学級の雰囲気をも十分に相手校に配信したいのだが, カメラやマイクの設置の仕方により伝わっている部分と十分に伝わっていない部分があるのではないかと思う。共同研究会を行う際は, 事前に授業のねらいや本校の研究の概要等を説明する必要があると考える。

③ 教育相談や情報交換での活用例

1) 受講者と指導者

- ・受講者 六郷東根小学校 教員 9 名
- ・指導者 秋田県総合教育センター 研究・情報教育班 赤坂 亨指導主事

2) 相談の内容

- ①複式学級における体育指導に関する留意点
- ②系統性を考えた器械運動について
- ③ソフトバレーボールの導入部分の学習内容について (実技)
 - ・基本動作
 - ・体ほぐし
 - ・練習方法の工夫

3) TV会議システム利用のねらい

- ・体育科の専門的な知識を得たり、体育の指導主事訪問に備えた実技をすることを通して、指導の観点を得たりすることができる。

4) 実践を通しての提言

- ・校内研修をセンターの指導主事から指導していただくという形式にすることで、より具体的に専門的な指導技術を学ぶことができる。また、本校のような少人数の教員集団だからこそ個々の実技の様子から指導助言してもらい、児童への指導につなぐことができる。

④ 成果と課題

1) 成果

- ・交流学习を通して他校の児童の考えを知ったり、自分たちの考えを伝えたりすることができ、本校の研究主題にある「思いを伝え合う表現力」を育てるための手立てとなった。低学年においては、伝え合う楽しさを知ることができた。また、本校では取り組んだことのない学習課題に挑戦することもでき、児童や教師は刺激を受け参考になった。
- ・算数の授業では、個別のアドバイスが必要な児童を担当が支援することができ、TTの役割をしてもらうことにより、児童の学力向上につながった。
- ・校内研修の活用として、センターの指導主事から専門的な教科指導やリアルタイムで演示をしていただいたり、質問に答えてもらったりすることにより、幅広い知識を得ることと指導力向上につながった。
また、授業研究会に向けて参考となる研修会になった。
- ・初めての試みとなったITV共同研究会は、校内の教員だけではなく、相手校教員も参観・協議するため、多様な意見を聞くことができたり、お互いの実践を紹介したりできるので大変有意義であった。また、訪問した指導主事の指導助言や資料を得ることができ、今後の指導に大変参考になると考える。
- ・みんなの登校日にITV授業を当て、保護者にも授業の様子を見せたことによって、ITV授業の活用の仕方を分かってもらえた。

2) 課題

- ・ITVを通した児童の受け答えや話し方等のコミュニケーション能力がまだまだ不十分であることが分かったので、さらにコミュニケーション能力をつけるための授業を模索していきたい。
- ・ITV共同研究会において、テレビだけでは伝わらない授業までの事前研修や本校の研究概要までを含めて共同研究を進めていくと、協議会での意見交換がさらに有意義になると考える。
- ・有効な活用をすすめるために、学年ごとに前年度の利用状況を紹介できると、参考になり活用しやすくなると考える。
- ・教科の授業だけではなく、全校集会やクラブ活動等特別活動による児童主体の交流もできるとさらに本校の研究主題の「思いを伝え合う」取り組みに近づけるのではないかと考える。

(7) 能代市立東雲中学校

① テーマ：教育機器を活用し、「多面的な見方や考え方」を高める授業の実践

1) 学校名、授業者名

・能代市立東雲中学校 1 年 教 諭 小宅 茂子
・秋田県総合教育センター 研修員 小宅 淳

2) 教科、単元名（題材名）

理科 「大地の変化」（21時間）

（実施日：平成19年10月30日 火曜日 3 校時）

3) 本時の授業のねらい

各種地層資料から、過去の地質事象・環境等を予想することができる。

4) T V会議システム利用のねらい

T V会議システムを利用し、生徒がふれる事象や資料を増やすことで、学習への意欲を高め、より多様な思考を引き出す。また、このシステムの対話を利用したTTにより、きめ細かな個への対応を行う。

5) 本時の実際（本時14／21）

学 習 活 動	時間	指 導 の 手 だ て
1 学習課題を把握する。	2	・これまでの学習をもとに考えるように助言する。
能代市の大地はどのようにしてできたのだろうか？		
2 班ごとの課題を確認する。 A「常盤地区に見られる砂泥互層はどのようにしてできたか？」 B「常盤地区と浅内地区の層に化石は見られるか？」 C「常盤地区に見られる砂泥互層は他の地区にも存在するか？」 D「東雲地区の階段地形はどのようにしてできたか？」	5	・課題を解決したら「それからわかること」を予想するように説明する。（T 1） 
3 実験・検証を行い、考察する。 A 粒の大きさが「大・小・大・小・大・小」となる層を実際に作ってみる。 B それぞれの層を乳鉢と水とともにすりつぶし、うわずみ液を顕微鏡で観察する。 C ボーリング資料の中から砂泥互層を見つけ出し、地図に印をつけていく。 D 東雲地区の写真や地図をもとに話し合う。	2 5	・一つの手がかりから、様々なことが読み取れることに気付かせ、班での話し合いが深まるように助言する。（T 1） ・ITVの対話で班ごとの考察を聞き、助言する。（T 2） 実験・検証結果と既習事項をもとに、過去の地質事象・環境等について予想することができる。 ●思考のもととなる学習内容のシートを示し、関連づけて考えるように助言する。（T 1）
4 発表会の準備をする。	1 5	・発表の大まかな流れや、全員で分担することなどを指示し、発表準備が円滑に進むよう机間指導する。 ・発表時の要点を確認し、模式図など発表資料の作成について助言する。（T 2）
5 本時の振り返りをする。	3	・本時の活動について振り返り、次時の発表会に向けて意欲が持てるようにする。

6) 実践を通しての提言

I T Vを利用して1年生理科の授業の進め方や、教材・教具の活用について、センターの研修員と相談しながら授業を作り上げることができた。このことは、多角的・多面的な視野でとらえた授業づくりなど、普段の授業の幅を広げる上で有効であったと考える。

さらに、総合教育センターの豊富なコンテンツを活用し、授業の中では、センターの研修員が「地質博士」として登場し、グループへのアドバイスや、全体での説明をしてもらうことにより、生徒たちの理科への興味・関心はよりいっそう高まったと考えられる。

②成果と課題

1)成果

- TV会議システムを導入して、初めて実施したこととして東北大会規模の研究会の発表者への教育相談（指導助言）がある。なんと言っても気軽に相談できたことが良かった。また、的確な助言が非常に役に立った。気軽に、教科の内容について相談できるのはTV会議システムならではのことと考える。こういう機会を利用していきたい。もちろん、学年部や教科部企画の授業研究会においても、総合教育センター指導主事からの授業の参観と、指導助言が効果的であると考えられる。また、教育事務所指導主事の指定及び要請訪問よりも、簡単な手続きと年度途中からの実施が可能である。
- 教科指導では、TV会議システムを通して総合教育センター指導主事が授業に関わることにより、興味・関心を高めることができるとともに、「分かる授業」につながるといえる。特に、総合教育センターからの教育用コンテンツの提示と、指導主事からの解説により、学習への理解を深めることができた。理科を例にすると、動画の提示と解説により、観察や理解が不十分な生徒についても知識として共有化することができたと考えられる。

- 交流活動は、3年生が男鹿南中学校と1回実施した。互いに学校の特徴を紹介しあったり、夏季総体に向けて互いにエールを交換することができた。生徒の交流は、互いのよさを認め合うなどコミュニケーション能力の育成にもつながると考えられる。



2)課題

- やはり、1ヶ月後の予定を立てるのは難しい。センターの先生方には、授業全体に関わっていただくより、部分的にワンポイントで入っていただいた方が指導計画を組みやすいと考える。そのため本校の先生方には、今後そのような方向で提案していきたい。
- 4月当初、回線が業者の手違いにより切られてしまった。しかし、そのことをしっかりと確認しないまま、計画を立て、失敗したことがあった。機器の動作確認も含めて、4月にITVの研修会を開きチェックしたい。
- 年間指導計画や各教科の経営計画の中に、TV会議システムを活用した授業実践の項目を設定し、重点的な取り組みを研究していきたい。
- 文化祭前や卒業式前に合唱を互いに聞き合ったり、一緒に歌ったりできたらと思うが、現在のシステムでは音に時差があるので残念。
- 本校及び男鹿南中と湯沢南中との3校によるPTA会員の交流を今年度は実施できなかった。国体や全国学力調査など新規の事業に追われて、既存の行事等も日程を変えたりと、正直なところ余裕がなかった。

(8) 男鹿市立男鹿南中学校

① 指導主事等が支援する授業の実践例

1 月末現在で、理科54回、数学3回、美術1回、保体2回、学活3回、総合3回の合計66回授業実践をしている。授業前に打合せをする場合もあるので稼働回数は80回近くになる。単純計算で週2回は何らかの形でTV会議システムを活用したことになる。

1) 学習意欲を高める活用

互いに考えを述べ合う討論形式の授業で、最後に討論について講評してもらったり、判定してもらったりした。専門的知識をもつ第三者に討論のようすを見てもらうことで、適度な緊張感を保ちながらも学習意欲が向上した。以下は1年総合的な学習の時間と3年理科での実践である。

① 男鹿市立男鹿南中学校 1年1組・2組・3組

指導者 清水信幸、西根義明、鈴木真弓、津谷亘、センター(アドバイザーとして)

② 学習テーマ「男鹿市がさらに発展するためには？」

③ 本時のねらい 男鹿市を発展させるためにどうすればいいのか自分の考えをまとめることができる。

④ 利用のねらい 生徒にとっては第三者に見てもらえるという意欲の高まりと、より専門的なアドバイスを受けることができる学習の質の高まりが期待できる。



⑤ 本時の実際

学 習 活 動	支 援
1 アドバイザーの紹介を聞く。	1 アドバイザーは、どのような観点でシンポジウムを聞くつもりなのか生徒に伝え、話し方等の留意点を生徒に意識させる。
2 各グループの代表6名がパネリストとして、自分たちで考えた提言を発表し、質疑応答を行う。	2 遠くから発言する生徒の声も拾えるよう、マイクとスピーカーを利用する。
3 アドバイザーからの講評を聞く。	3 事前に伝えた観点について講評を述べる。

⑥ 実践を通しての提言

この実践は、2週連続で行ったシンポジウムの2回目である。1回目にTV会議を通して指摘された事柄が2回目には改善されており、連続してTV会議システムを活用することが効果的であることが実感できた。また、第三者に講評してもらうことで生徒がいつも以上に真剣に討論に参加し、学習にも深まりが見られた。

- ① 男鹿市立男鹿南中学校 3年1組 指導者 小玉和彦(T1) センター(T2)
- ② 理科 単元名「自然と人間」
- ③ 本時のねらい 「ソーラーカー」と「燃料を使う車」のどちらがいいか討論することで、環境について科学的に考えることができる。
- ④ 利用のねらい 第三者に討論の判定をしてもらうことで、学習意欲の高まりを期待した。また、より専門的なアドバイスをもらうことで科学的に考える力を高めようと考えた。
- ⑤ 本時の実際

学 習 活 動	支 援
1 判定者の自己紹介を聞く。	1 「科学的に発言しているのか」という点に着目して判定する旨を生徒に伝える。
2 ソーラー派が科学的に考えを主張し、それについて質疑応答する。	2 討論がねらいからずれないように、教師が司会をする。 
3 燃料使用派が科学的に考えを主張し、それについて質疑応答する。	
4 判定結果を聞く。	4 判定の根拠を明確にし、科学的に考えることの意義を伝える。

- ⑥ 実践を通しての提言
科学的に主張する方法を自分たちで考えさせ討論会まで学習を進めたので、生徒は大変意欲的であった。1年生からTV会議システムを多く活用し、声の大きさや画面への映り方など各自が主体的に工夫できる学年なので、大変リラックスした雰囲気です。授業が進んだ。ある程度使用回数をこなしてくると、「声がよく聞こえない」とか「顔が映っていない」などという学習のねらい以外の部分での配慮が不要で、本時のねらい達成に集中できるようになり、学習効果が高まることが分かった。

② 交流・共同学習およびITV共同授業研究会の実践例

他校の生徒と共同授業をすることで、多様な考えにふれることができ、思考の広がりや深まりが見られた。以下は1年理科の実践である。

- ① 男鹿市立男鹿南中学校 1年1組 指導者 西根義明(T1) センター(T2)
- ② 理科 単元名「大地の変化」
- ③ 本時のねらい 採取した化石について特徴を説明できる。
- ④ 利用のねらい 離れた場所にある能代市と湯沢市の化石について知り、当時の地層の広がりを実感できる。
- ⑤ 本時の実際 各校ごとに発表し、質疑応答する。
- ⑥ 実践を通しての提言 遠く離れている場所でも、地下にある地層はつながっていることが確認できた。

③ 教育相談や情報交換での活用例

本校ではあくまで授業での効果的な活用に焦点をあてているため、相談だけの活用は3回(1月末日現在)と少ない。しかし来年度は学級減のため教員数も減ることになり、今までできていた教科部会ができなくなる。そこで教科部会としてTV会議システムを活用することを現在検討中である。

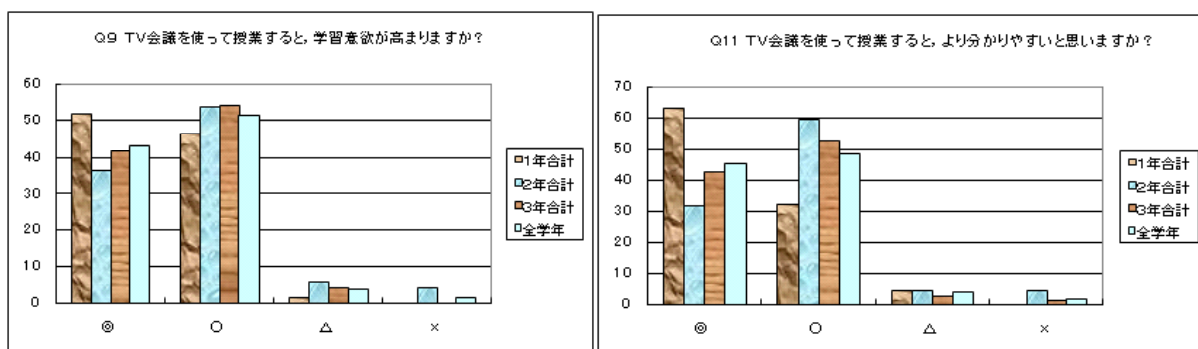
④ 成果と課題

1) 成果

平成15年度に導入されたTV会議システムであるが、理科は毎年50回近く活用を続けてきた。そのノウハウが蓄積され今年度の学習状況調査結果からは学力の向上が確認できた。以下は昨年度重点的にTV会議システムを活用した「化学変化と原子・分子」に関する出題の現3年生の県平均との比較である。

	水の電気分解	化学反応式	金属と酸素の質量比
県平均	75.0%	54.9%	39.2%
本 校	91.8%	63.0%	63.0%

このように、TV会議システムを毎時間のように活用した単位については、県平均を大幅に上回る結果となった。現3年生は入学時より当たり前のようにTV会議システムを活用してきた学年であり、初対面の総合教育センター指導主事にも緊張せずに自分の考えを発言できるようになった。来年度は理科で得たTV会議システム活用のノウハウを他教科へも広げていきたい。



【 ◎とてもそう思う ○少しそう思う △あまり思わない ×まったく思わない 】

また、上のグラフは今年度の生徒アンケート調査の結果である。理科で40回以上活用した1年生の評価が特に高い。昨年度も活用の多かった学年が高い評価を示していたので、活用した分だけ、生徒の意識も変わり学習効果も高まってくることが確認できた。来年度以降も自信をもって活用を続けていきたい。

2) 課題

新しく赴任した教員と活用実績のある教員とのTV授業に対する温度差がある。早い段階で活用すると抵抗感も少なくなるので、来年度は夏休み前に1回は活用してもらおうよう計画を立てていきたい。

また、中学校の場合時間割変更が難しいので、共同授業や共同研究会を行うことが非常に困難である。これらの在り方については今後検討を必要とする。

(9) 湯沢市立湯沢南中学校

① 指導主事等が支援する授業の実際

1) 湯沢南中学校 高山真理子

2) 教科 単元名 美術 「水墨画に挑戦」

3) 本時の授業のねらい

模写作品を通して、仲間の着眼点を知り、水墨画表現の多様さを理解することができる。

4) TV会議システム利用のねらい（必要性）

墨の効果をそれぞれ生かした生徒の作品発表の授業である。田村指導主事の講評から広がりある鑑賞を目指す。

また、紹介された作品から、日本美術の中の水墨画の多様性を学ばせる。



5) 本時の実際（5／8）

学習活動	支 援
1. 鑑賞ノート 2. 本時の見通しを持つ 3. 模写作品紹介 → 4. 参考作品鑑賞 → 5. 次時の本制作に生かすことをまとめる	・発表生徒の作品に講評を田村先生からいただく。 （モチーフ、効果、全白等） ・雪舟の秋冬山水図を中心に、水墨画表現の多様性を学ぶ。

6) 実践を通しての提言

発表生徒は講評をいただき喜んでた。また、仲間の模写にたくさんのモチーフの表し方のヒントがあり、次時からの本制作に生かそうと意欲をもたせる事ができた。

② 交流・共同学習の実践例

1) 学校名、授業者名

- ・自 校 湯沢市立湯沢南中学校 1年生 佐藤竜成
- ・相手校 能代市立東雲中学校 1年生
- 湯上市立男鹿南中学校 1年生

2) 教科、単元名（題材名）

- ・理科 「大地の変化」

3) 本時の授業（交流・共同学習）のねらい

- ・各地区で調査結果をもとにした予想をお互い発表しあい、各々の地域の特徴や自分の地域との違いをとらえ、大地の成り立ちを総合的に考えることができる。



4) 本時の実際

- ①事前にセンターに指導案・資料を送付
- ②本校ミーティングルームと総合教育センターを接続し、教科部会を開催
- ③学校間交流会を実施

5) TV会議システムの必要性

- ・県内の各地域によって地層の状況が異なるため、各校で調査したことを情報交換することによって、より広い視点で考えることができる。
- ・TV会議システム上でのコンテンツ提供を活用することができる。

6) 実践を通しての提言

- ・各地域（広域）の研究実践の情報交換は、多面的、総合的な見方・考え方を培うために有益である。
- ・他校との発表会の場を設定することにより、プレゼンテーション能力を高めることができる。

③ 教育相談や情報交換での活用例

1) 学校名 湯沢南中学校

2) 教科 領域

技術・家庭部会 数学部会 社会部会 保健体育部会

3) 本時のねらい

- ＜数学＞指導主事に数学部会に入っていていただいて、指導案と一緒に検討する。
- ＜社会＞指導案検討会に指導主事に参加・指導していただくことで、より良い授業づくりを行う。
- ＜保健体育＞指導主事から、課題解決型学習と教師の指導性についてアドバイスをいただく。
- ＜技術・家庭＞指導案検討会に指導主事に入っていていただき、アドバイスをいただき、授業改善に取り組む。

4) TV会議システムの利用のねらい

指導主事の先生から指導助言をしていただくには、本校に来ていただくか、全員で訪問するかであるが、システムを活用することにより、総合教育センターから直接画面を通して指導していただける。

5) 本時の実際

- ＜数学＞事前に指導案と質問事項を送付し、回答をいただいた。その後、作図一般における基礎・基本について討議した。最後に新しい用語について解説をしていただいた。
- ＜社会＞①授業者からの説明 ②指導案の検討 ③指導主事からの指導助言
- ＜保健体育＞事前に検討していただきたい事項を送付し、部会で指導法について助言していただいた。その内容以外の領域についてもアドバイスをいただくことができた。
- ＜技術・家庭＞指導案を事前に送付し、お互い同じ資料を見ながら検討会を進めた。本時の流れを中心に助言していただき、授業の流れを確認した。

6) 実践を通しての提言

- ・参考になることをいろいろお聞きすることができた。
- ・授業を行う際の適切なポイントを指摘していただいたことで、有意義な検討会が行われた。今後もこのような形式での検討会は有効であると思った。
- ・今後の指導法について、新しい視点からの運動理論を用いた技能学習の指導の在り方を学ぶ良い機会となった。
- ・最新の情報などを提供していただき、勉強になった。
- ・同じ題材を取り扱うにしても、様々な方法があり、次の日からでも授業で取り組めるような方法を具体的に示していただいた。

④ 成果と課題

1) 成果

- ・前年度から引き続き、教科指導や領域指導の相談をシステムを活用して行うことができ、良い研修の場となった。
- ・各教科部会に指導主事の先生に入っていただき、適切なアドバイスをもらうことで、授業改善につながった。
- ・理科の共同・交流授業では生徒の生き生きとした表情が印象的であったし、その単元の印象が強く残り、理解度も高くなった。
- ・システム活用後もその場で教科部会が自然の流れで継続するケースもあり、教科部員全員の研修の場や、確認の場として有効であった。

2) 課題

- ・機器の操作に携わる職員の育成。
- ・中学校間での交流・共同学習は、ねらいや教科の進度が合わず、難しい。
- ・生徒会同士の交流を計画していたが、できずに終わってしまった。中学校では放課後の時間に生徒会の交流を進めることで、お互いの活動が活性化できると思う。

3 TV会議システムの有効利用の在り方

(1) センターの指導主事と連携した授業での利用について

①実践を通して、明らかになったこと

教科別の効果的な実践と、効果があまり見られなかった実践を平成19年度末に整理したところ、以下ようになる。

インターネットTV授業における効果のある利用と効果の期待できない利用

	効果があると思われる利用	効果があまり期待できないと思われる利用
国語	・実物、写真、絵あるいはパワーポイントで本時のねらいに即した課題提示やまとめを行うなど、視覚的な教材を使った授業、センター指導主事と児童生徒間での質疑応答など双方向の内容を含む授業に有効である。 ・担当教師が授業を進行している中で、授業者のニーズに応じてコメントする場面や、児童生徒の関心・意欲を高めることには有効に機能している。 ・授業を通してよりも、担当教師との打ち合せ等を通して、共に教材研究を深めたり、展開の方法を考えたりすることで指導力向上と教科研修に役立つ。つまり、学習指導のかかわる相談への対応に成果が大きいといえる。 ・校内研修における助言や事例紹介、質疑応答など諸疑問に直接対応する方法としては有効である。 ・初期層教員の教科指導の力量の向上のための支援ができる。講師への相談対応にも有効といえる。	・グループ活動でセンター側と全グループをかわらせようとすると、時間不足から十分な指導ができないまま終わってしまう場合が多い。 ・小学校の低学年では、機器そのものへの興味があつて引きつける部分と、授業への集中力を削ぐ部分があり、難しいと感じる。 ・児童生徒が自分で書いた作品を提示しながら発表をする際などでは、作品の文字が不明瞭で評価・賞揚がしにくい場合がある。OHCを用いるなど作品提示の仕方を工夫する必要がある。 ・学習課題の提示や本時のまとめなどの段階は、教室の教師が直接、児童生徒の反応を確かめながら指導するほうが適している。
社会	・児童生徒の疑問に答えたり、アドバイスをしたりする。 ・児童生徒の発表に対して、講評したり、補足的な説明をする。 ・授業の進め方や内容に対して、担当教師と打ち合わせをする。 ・共同学習において、事例の比較・検討を通して社会的事象に対する理解を深めることができる。また小規模の学校に対しては、共同学習によって、複数の視点から事象を多面的にとらえる機会を提供できる。	・センター側が板書したり、小さな資料を提示する場合は、どうしても見づらくなる。 ・児童生徒とセンター担当者の受け答え、やりとりが中心になる場面では、技術的にどうしてもタイムラグが発生して、スムーズなコミュニケーションがとりにくい。 ・教科の研修会で、事前に質問をもらっていても、質問自体が漠然としていたり、背景や趣旨がわからないため、どう解釈していいかわからない質問事項があった。具体的な単元や研究授業等が設定されてない研修会は無理がある。
算数・数学	・1時間全部の接続でなく、授業のねらいに沿って導入やまとめの場面で、ワンポイントでかかわる。 ・課題提示の際に、児童生徒等と対話しながらパワーポイント等で示し、意欲を高める。	・学級全員を相手にして、指導主事が主となり授業を進める。 ・コース別学習などで、指導主事が1人で1単位時間のほとんどを受けもって、練り合いをまとめ上げるように学習を進める。
理科	・観察、実験において、課題設定や実験計画のヒントになるような情報を提示する。 ・センターにしかない設備や、備品などを用いて、演示実験などを行う。 ・演示実験の中で、時間がかかったり、危険を伴ったりする実験などの映像を配信する。 ・観察、実験において、個人やグループの考えを聞き、課題解決に向けてアドバイスをする。 ・学習シートへの記述について個別にアドバイスをしたり、評価をしたりする。 ・学校間交流でそれぞれの学校の地域では観察できない内容について情報交換したり、実験の成果を発表したりする。	・実際に学校でも観察や実験ができる内容を行う。 ・においや手ざわりなどの要素を含む実験について演示する。 ・練習問題の解説など、演習的な内容の授業にかかわる。 ・一方的な提示で終わり、児童・生徒とのかかわりが少ない。 ・担当教師のねらいが明確でないまま授業にかかわる。 ・担当教師が学校で実際に観察、実験をせずに映像資料等で済ませる。 ・児童生徒と担当指導主事との一問一答（テレ

	・事前の打ち合わせの中で、本時のねらいを焦点化するために授業者と話し合い、意見を出し合って授業をつくり上げていく。	ビ子ども相談室)のような授業。
生活	・児童の学習意欲が高まるような作品を紹介する。 ・児童のアイデアを聞き、それについてアドバイスする。 ・他校と交流し、活動を紹介し合う。 ・保護者を交えた交流を行う。	・長時間にわたり配信する。 (低学年は15分程度が望ましい) ・全体の子どもたちに対しての助言は、担任の先生のサポートが必要である。
音楽	・児童生徒の演奏を聴き、表現の工夫や、歌詞のイメージの広げ方、曲想を生かす楽器の選び方や奏法について講評、助言する。 ・鑑賞において、聴く視点を与えたり、学習シートへの記入にヒントを与える。 ・事前の指導計画段階で、学習展開や教材選択について助言する。 ・日頃の音楽科指導や評価について、悩みや相談に応じる授業研究会を行う。 ・音質などにはやや難もあるが、場合によって範奏、範唱をする。	・個々の児童生徒やグループへのアドバイスは、授業形態や、担当教師のかかわり方に課題が多かった。助言が全体の子どもに共有できるような学習過程の工夫が大切である。 ・このシステムでは授業が始まってからの教師同士のやりとりはすべて子どもにも伝わってしまう。 ・効果的な表現指導が拍にのって行われることが多いため、タイムラグがある本システムでは、思うような指導ができないことが多い。
図画工作・美術	・小学校高学年以上の児童生徒と、1対1で作品について語り合うこと。(完成、未完成は問わず)このとき担当教師を含め教室の全員が視聴していれば、鑑賞の時間、または自然に聞こえる支援の場として、効果はあると思う。 ・授業中の活用とは言えないが、授業の構想を担当教師とやりとりする中で、いろいろな準備を共にできたことがよかった。図工は授業の本番より、前段階の仕込みが重要である。今回協働した担当教師のほとんどは、「こんなに図工のことを一生懸命考えたのは初めてだ。」と話してくれていた。これによって授業がよい方向になったとすればこれ以上の効果はない。 ・TV画面を通してではあるが、描いたり作ったりする場面を直接提示できることができること。	・初期段階で題材との出会いを指導主事に頼みたいとする要望があったが、導入は題材の全体像と密接にかかわることなので、主導者である担当教師が行うべきであることを伝える場合が多かった。 ・小学校低学年の児童とのやりとりには慎重さが必要である。 ・技能の演示を求められるが、そのことが児童生徒の工夫する姿勢を損なわないようにするには、デリケートな配慮が必要である。テレビのこちら側では適切な度合いがつかみにくいことが多い。 ・振り返りがない授業。授業後に短くても良いので、担当教師との簡単な反省の機会をもつ必要性を感じる。
技術	・コンピュータやインターネット等の専門的な内容の解説や、生徒の疑問や質問等へのアドバイスをする。 ・1対1で生徒の質問に答えること。 ・学校ですぐにできない実験を視覚に訴えた提示をする。例えば、洗剤の洗浄作用、試薬を使った汚れの検出、あくの出る野菜の変色、野菜の塩による放水、等。	・学級全体を対象とした、一斉指導的な内容の授業へ参加する。 ・教室後方の生徒の活動がよく見えない。
家庭	・プレゼン資料を使った説明 例「栄養バランスのとれた献立を考える」 「みそ汁の作り方、実の切り方」 「快適な住まい方の工夫」 「賢い消費者 消費者トラブルに注意」 「栄養素の働き、鉄分・カルシウムが不足すると・・・」 「調理実習の進め方、野菜のいろいろな切り方」 ・普通教室ですぐにできない実験・実習を視覚に訴えた提示をする。 例「合成着色料を使ったジュース作り」 「スナック菓子に含まれる油分」 「野菜の加熱・塩による変化」 「布の吸水実験」 ・調理実習の計画段階で、材料の切り方・作り方・	・児童生徒の考えを共有し、学級全体で深める学習。(学級全体が見渡せないため、やりとりができない。)

	盛りつけ等を師範する。 ・ ミシン操作の実演 上糸のかけ方・下糸の巻き方	
保健体育	・ 校内研修会や教科の研修会等で活用してほしい。 ・ 単元計画検討や指導法についての事前検討会なども効果があるので活用してほしい。 ・ めあて学習等における練習方法の具体例の提示など。 ・ つまづきの児童生徒へのアドバイス等	・ カメラを通しての体育の実技指導は、限界がある。
英語	・ 特定の生徒と英語でやりとりをする。（生徒のインタビューに答え、他の生徒はメモをとるような活動） ・ 生徒のスキットやスピーチを聞いて、評価したりコメントしたりする。 ・ スピーチやA L Tとの会話を聞かせたり、それについての質問をしたりして、生徒の聞く活動の支援をする。 ・ 異文化理解のための情報を提供する。 ・ 教員の研修の支援をする。	・ 生徒全員を対象にして、インタラクション（やりとり）しながら、語彙や文法の指導をしたり、英文の内容把握を進めるような授業にかかわる。
特別支援教育関係	・ 児童生徒にとって日常接している友達や学級担任とは異なる第三者とのやりとりを通してかわりを広げたり（ゲームなど）、普段学習していることを活用して発表したりする機会となる。 ・ 児童生徒の実態に合わせ、興味・関心を引き出すような教材提示の仕方を実際にやってみせることで、学級担任の授業技術のバリエーションを広げるきっかけとなる。	・ 授業者が教材研究を十分に深めないまま、指導方法についてアドバイスを求めたり、計画の途中の軌道修正が難しい授業についてアドバイスを求めたりするケースもあった。事前に、自分の考えや迷いをまとめたり、指導の手立ての意図について吟味をしたりしておく授業者と指導主事の話し合いがより効果的になると感じる。
総合的な学習の時間	・ 個別に発表方法を指導する場面で支援する。 ・ グループ別学習における、テーマ選定方法、調査方法などに関する助言をする。 ・ 児童生徒一人一人の相談にのりながら支援する。	・ 学級全員に対して長時間語りかけるような展開や担当教師が指導できる内容を指導主事が行う。 ・ 学校所在地の地域の事情を知らない指導主事が、地域の特性に根ざしたテーマを追究する学習への指導をする。 ・ 児童生徒一人一人の相談にのりながら支援する場面での利用は、個に対しては有効だが、多くの児童生徒が対象となるような支援では、不向きである。。

(2) I T V共同授業研究会について

I T V共同授業研究会…T V会議システムを利用して、協力校どうして授業研究会を行う。

①協力校の実践後のアンケートから

◆ I T V共同授業研究会を実施してよかったと思う点 等

- 客観的なご意見をいただける。
- 少人数の学校なので、見る目が多くなり、色々な観点から指摘いただけることがありがたい。
- 生の授業を見て、よい点を学び自分たちの研究や授業に生かすことができる。
- 他校の実践を居ながらにして見ることは、画期的だと思う。
- 何よりも、授業を見せ合い、互いに気付いたところを伝えながら、教師の今後の授業力向上に生かしていこうとすることがよいと思う
- 本校で研究教科として取り上げていない「算数科」の研修をすることができた。

- ・算数の発展段階の授業のスタイルとして、新しい形を学ぶことができた。
 - ・算数の「発展」という意味が、指導主事のお話から理解することができた。
- 今回は、授業研究だけでなく指導主事を交えての研究協議会の様子も送信した。話し合いの流れと指導主事による指導・助言を生で聞けることが参観校にとってもよいことだと思う。
- I T Vの操作についてもっとこうしたらいいというアドバイスをいただける。
- 小規模校どうしなので相手校の授業を通して、自分の授業を振り返ることが出来た。
- 自校にしながら県南の方の授業研究会に参加出来るのは魅力的である。
- 授業参観だけでなく、研究協議にも参加し意見交換が出来たことは有意義だった。
(他校の研究協議に参加する機会は公開以外ほとんど考えられないので)

◆ I T V共同授業研究会をよりよくするための提言 等

- 今回は研究会には参加していただかなかったが、後で話し合ったことの記録を送る手間などを考えたら、やはり同時に行うのがいいのではないかと思った。
- カメラの操作に限界があり、授業の様子を伝えきれなかった。グループでの話し合いなどは音声だけでも拾うよう、マイクを移動することも考えたい。
- 指導案は、なるべく早めにメールで送ってもらい事前研究しておく。
- あらかじめ、授業で使う資料をF A X用紙で送っていただけると有り難い。
- 活動している内容がよく分かるように、カメラ操作する必要がある。(音声面でもグループでの会話が聞き取れない→マイク2個では拾えない。)
- できれば、授業を参観したら、協議し合う時間が必要に思う。
- 研究協議で話題になったことや指導主事の指導助言も教えていただきたい。
- T Vを使った授業研究会に適している授業形態かどうかを考えて行う必要があるのではないか。個別学習とか班での相談とかの学習形態では、教師の支援や児童の活動の中身が伝わりにくい。やはり、一斉形態の方が教師の発問や支援の有効性を検討する研修になると思う。
- 研究授業で児童が使うプリントを参観校にF A Xで送るとよい。
- 研究の概要(主題、テーマ、設定理由、仮説等)が分からないと授業の方向が不明瞭である。説明や資料を交換する場があったらよかった。そうすることで話し合いも深まるのでは。
- 研究協議の時間が短く(2学年の授業のわりに)、協議の焦点を明確にする必要があった。
- 他校が研究協議に入ったことで、気を遣ってくださったと思うが、自校の研究会ということで研究会を進めていかないと成果が上がらないと思う。
- 相手校の研究会にどこまで意見を出していいのか迷いもあった。
- お互い授業をし合い、同じテーマで授業研究会をするのもいいと思う。

◆その他

- 先方の研究教科でないのに参観していただき、その上ご意見まで頂き感謝している。本校の研修に役立てていきたいと思う。ありがとうございました。
- 今回は、栄小学校より計画訪問の様子を送信していただいて、それを録画して放課後の研修時間に見ることにした。(感想カードを準備)

- 録画であれば早送りも可能。発問やら児童の発言など再度聞くことができて便利。
 - ・リアルタイムで授業参観したり，研究会に参加することが理想的だが，時間をとるのがむずかしい。
- 他校の研究会の参加に難しさを感じた。事前の研究の流れを理解していないと勝手（無責任）なことは言えないように思う。まして指導主事を招いての訪問，それも数回招いての指導主事だと，研究の積み重ねもあるはずなのに…。感想を言うことはいいが，「自校の研究」という意識をもたないでお互いつらくなってしまうのではないだろうか。

② I T V授業研究会の成果と課題

○教員の力量向上

自校にしながら，授業参観後の感想をより多くの教員から得ることができるし，他校の研究授業を参考（訪問指導主事からの指導助言を含む）にすることができるので，教員の力量アップにつなげることができる。

○情報交換の場の提供

同じ学校の教員のみならず，他校の教員と授業実践を通じた情報交換の場を提供できる。

△事前・当日・事後での負担増

事前の日程調整，資料の送付，当日の機器設置及び操作，音声の聞き取りにくさ等，また，事後の時間確保等に難があり，教員に新たな負担がかかってしまう状況である。

(3) 20年度の活用の概要について

指導主事等がかかわる授業以外に，引き続き次の3種類の利用を考えていきたい。

1) カリキュラム・サポートでの利用

センターのカリキュラムサポートとしての利用を考える。例えば，教科指導にかかわる相談，生徒指導や特別支援教育関係での教育相談で利用したりすることが考えられる。

インターネットTV授業と比べると，学校現場の教員の負担感が少なく，かつ有効性が即時に確かめられることが利点でもある。

特に，TV会議システムを活用した生徒指導や特別支援教育関係での教育相談は，互いの顔を見合いながら，しかも相手の表情を確認しながら行うことができ，来所相談に近い形で行うことができる。

2) 授業交流や共同学習， I T V 共同授業研究会での利用

交流・共同学習は学習の豊かさや深まりが期待できるし，児童生徒のコミュニケーション能力の育成につながるので，引き続き利用の拡大を図りたい。

I T V 共同授業研究会は，TV会議システムを介して，互いに授業を見せ合い，その後，共同で授業研究会を行うので，授業改善を進める上で有効な手段だと考える。ただ，準備や当日の機器操作等に課題があるので，計画的な利用で実施したい。

3) 校内研修会での利用

センターの指導主事を講師に教科指導（実技指導）や生徒指導，特別支援関係の校内研修会を開いたり，TV会議システムを利用して出前講座に近い形でセンターの研修講座を提供したりして，校内研修を支援することが考えられる。

Ⅳ 資 料

1 平成19年度 インターネットTV授業実施一覧

① 総合教育センターの指導主事がかかわった授業

月／日	曜	学校名	学年	教科等名	単元名	指導主事等が支援した内容
6／8	金	十和田小	6	家庭	朝食に合うおかずを作ろう	野菜のための実習計画へのアドバイスを する。
8	金	鶴舞小	5	音楽	ふしの重なり合いを感じ取ろう 「南風にのって」 「世界がひとつになるまで」	声の出し方や歌い方についてアドバイスを する。
12	火	栄小	6	理科	動物のからだのはたらき	血液の流れと働きが分かるような映像や具 体的な資料を提示する。
14	木	鶴舞小	3	国語	くわしくする言葉	導入時の課題提示や練習問題の提示をす る。
14	木	鶴舞小	2	算数	たし算	コース別学習の1つのコースを担当する。
15	金	男鹿南	1	理科	植物の世界	植物の分類について、色々な植物を紹介し たり補助したりする。
15	金	男鹿南	1	理科	植物の世界	植物の分類について、色々な植物を紹介し たり補助したりする。
18	月	六郷東根	3	算数	わり算	まとめの時間で、たしかめの問題がはやく できた児童へ、さらにレベルアップの文章 題を出す。
19	火	男鹿南	1	理科	植物の世界	植物の分類について、色々な植物を紹介し たり補助したりする。
20	水	栄小	5	社会	とる漁業にはげむ人々	さんま漁の映像や実物資料（針や集魚灯） などを紹介する。
21	木	栄小	1	国語	あいうえおであそぼう	口の開き方と役割読みに参加し、音読への 意欲付けをする。
21	木	栄小	5	国語	インタビュー名人になろう	インタビューの練習を聴いてアドバイスを する。
21	木	男鹿南	3	理科	エネルギー	生徒の実験計画がより良くなるよう助言す る。
21	木	鶴舞小	4	算数	電たくを使って計算しよう	・電卓の使い方になれるための計算問題を 提示する。 ・電卓の不思議さを感じられるような電卓 遊びの紹介をする。
22	金	鶴舞小	4	算数	電たくを使って計算しよう	・電卓の使い方になれるための計算問題を 提示する。 ・電卓の不思議さを感じられるような電卓 遊びの紹介をする。

22	金	男鹿南	3	理科	エネルギー	生徒の実験計画がより良くなるよう助言をする。
22	金	栄小	2	学級活動	虫歯のバイキンマンをたいじしよう	導入で虫歯に関するクイズを出す。
25	月	鶴舞小	6	算数	単位量あたりの大きさ	習熟度に応じた応用問題の出題する。
26	火	栄小	3	国語	道案内をしよう	子どもたちが話す道案内の内容についてアドバイスをする。
26	火	鶴舞小	4	算数	電たくを使って計算しよう	- 電卓の使い方になれるための計算問題を提示する。 - 電卓の不思議さが感じられるような電卓遊びの紹介をする。
27	水	鶴舞小	6	算数	単位量あたりの大きさ	習熟度に応じた応用問題の出題をする。
28	木	鶴舞小	6	算数	単位量あたりの大きさ	習熟度に応じた応用問題の出題をする。
28	木	栄小	5	算数	四角形を作ろう	三角形を組み合わせて四角形を作るコースを担当する。
7 ／ 2	月	男鹿南	3	理科	エネルギー	生徒の考えた実験計画に助言をする。
3	火	鶴舞小	1	算数	のこりはいくつちがいはいくつ	問題（文章題）づくりの約束やコツを提示する。
3	火	鶴舞小	6	図工	見つけたよわたしの町のこの風景	川の流れの描き方を紹介する。また、児童の作品にアドバイスをする。
5	木	栄小	1	国語	おもちゃとおもちゃ	拗音のある言葉集めをします。それをチェックする。
6	金	男鹿南	3	理科	エネルギー	生徒の考えた実験計画に助言をする。
6	金	栄小	6	理科	植物のからだのはたらき	アルコール脱色法とたたき染め方について演示する。
10	火	鶴舞小	5	国語	インタビュー名人になろう	子どものインタビューに対するアドバイスをやる。
10	火	十和田小	6	社会	武士の世の中をさぐる	発表に対する助言をしたり、関連資料の提示をしたりする。
10	火	栄小	5	社会	水産業のさかなな地域をたずねて	わかめや昆布の養殖や収穫の様子資料提示をする。
11	水	鶴舞小	2	国語	かん字のひろば	絵の中にある漢字でつくった文を例示したり、子どもがつくった文にアドバイスしたりする。
12	木	男鹿南	3	選択理科	科学マジックショー	生徒が考えた科学マジックを見て講評する。
12	木	栄小	2	国語	スイミーと友だち	グループ毎に作った紙芝居を聞いて、アドバイスをやる。

12	木	鶴舞小	3	国語	本と友だちになろう	楽しい工夫のある帯を紹介する。また、子どもたちの作品を見て、助言をする。
12	木	栄小	4	理科	月の動き 夏の星	月の動きのシミュレーションと夏の星についての話をする。
13	金	男鹿南	1	理科	身の回りの現象（音）	音の波形を見せる。
13	金	男鹿南	1	理科	身の回りの現象（音）	音の波形を見せる。
13	金	男鹿南	1	理科	身の回りの現象（音）	音の波形を見せる。
19	木	男鹿南	3	学活	合唱を通して学級がまとまろう	合唱「COSMOS」を聴いてパートごと、指揮者、伴奏者に助言をする。
19	木	男鹿南	3	学活	合唱を通して学級がまとまろう	合唱「COSMOS」を聴いてパートごと、指揮者、伴奏者に助言をする。
20	金	栄小	3	算数	3けたの数の計算を考えよう	くり上がりのあるたし算，くり下がりのあるひき算を早く正確に行えるよう支援する。
8 ／ 28	火	男鹿南	3	学活	合唱「河口」	7月の課題曲に続き自由曲について助言する。
30	木	鶴舞小	3	理科	花と実を調べよう	ハウセンカのこのごろの成長の様子を聞いて，アドバイスをする。また，いろいろな植物の花と実を紹介する。
31	金	鶴舞小	5	国語	カンジー博士の暗号解読	カンジー博士となり，出題をしたり問題を解いたりする。
31	金	栄小	5	社会	自動車工場をたずねて	自動車工業に関するクイズや映像を提示する。
9 ／ 3	月	栄小	5	国語	伝え合って考えよう	導入で環境破壊の映像を見せる。
5	水	山田小	3	国語	へんとづくり	クイズ形式で漢字の組み立ての例を見せたり，「へん」「づくり」の意味を説明したりする。
5	水	栄小	3	国語	へんとづくり	クイズ形式で漢字の組み立ての例を見せたり，へん・作りの意味を説明する。
7	金	栄小	2	国語	丸・点・かぎのひみつをさがろう	句読点の打ち方が違うと意味も違ってくる例を紹介する。
10	月	東雲中	3	国語	原爆の詩を読む	授業について指導する。
13	木	栄小	1	国語	かずとかんじ	子どもたちが発表する身の回りにあるものの数え方をチェックする。
14	金	栄小	特 支	生活 単 元	〇〇先生となかよくなろう！！	子どもの自己紹介に対して質問をする。子どもからの質問に答え，言葉遊びを一緒にする。
14	金	鶴舞小	6	算数	分数のかけ算とわり算(1)	習熟度に応じた応用問題を出題する。

20	木	栄小	5	社会	これからの自動車づくり	「安全な車」「人に優しい車」について紹介する。
21	金	鶴舞小	4	図工	クロッキー	クロッキーの基礎、描き方へのアドバイスをする。
21	金	鶴舞小	4	図工	クロッキー	クロッキーの基礎、描き方へのアドバイスをする。
26	水	鶴舞小	4	図工	クロッキー	クロッキーの基礎、描き方へのアドバイスをする。
27	木	鶴舞小	1	算数	ふえたりへったり	3口の数の加減混合のしかたのこつを説明する。
27	木	鶴舞小	3	算数	計算の仕方を工夫しよう	導入の問題を提示する。
28	金	湯沢南	2	美術	水墨画に挑戦	生徒の模写作品のコメントと水墨画を味わうアドバイスをする。
10 ／ 3	水	十和田小	1	算数	ふえたり へったり	3口の数の加減混合のしかたのコツを説明する。
4	木	栄小	5	社会	地球儀を使いこなそう	地球儀の活用の仕方を指導する。
5	金	鶴舞小	1	算数	どちらがながい	長さ比べの実演をする。
5	金	鶴舞小	5	算数	小数のかけ算を考えよう	習熟を図る段階で一つのコースを担当し、解き方の説明を聞き、アドバイスする。
10	水	鶴舞小	6	総合	未来へのメッセージ(環境について)	地球温暖化や酸性雨について、児童の質問等に助言する。
12	金	東大曲小	3	音楽	リコーダーに親しもう	・様々なリコーダーを使った演奏をTVで映す。 ・子どもの練習への助言をする。
24	水	鶴舞小	4	算数	わり算の筆算を考えよう	習熟度に応じた問題を出題する。
24	水	男鹿南	3	特支理科	科学マジックに挑戦！	発表を見て講評をする。
25	木	山田小	1	国語	「たのしくつかおう」	漢字の成り立ちを動画等で提示し、意欲付けをする。
25	木	鶴舞小	4	算数	わり算の筆算を考えよう	習熟度に応じた問題を出題する。
31	水	六郷東根	2	算数	かけ算	かけ算の習熟問題に対して支援を行う。
11 ／ 2	金	栄小	6	図工	クロッキーに挑戦	クロッキーの基礎を実技も見せながら指導する。
5	月	栄小	1	算数	たしざん	1～10までの数カードを提示し、あといくつで10になるか児童に考えさせる。
5	月	十和田小	2	算数	かけ算(1)	習熟の時間で上位の子の問題づくりを見て、アドバイスをする。
5	月	栄小	6	理科	水溶液の性質とはたらき	リトマス紙の使い方の演示と子どもたちの実験結果に対するアドバイスをする。

6	火	鶴舞小	2	算数	新しい計算を考えよう（かけ算）	コース別学習の一つのコースを担当する。（2～5の段の習熟）
8	木	栄小	5	算数	タングラム	作れない子にアドバイスする。
8	木	男鹿南	1	総合	テーマは後日	パネルディスカッションの講評をする。
13	火	鶴舞小	3	算数	10000より大きい数を調べよう	発展コースを担当し、解き方の説明を聞いて助言等を行う。また、問題の作成をする。
16	金	男鹿南	3	理科	自然と人間	生徒の考えた実験計画にアドバイスをする。
16	金	男鹿南	3	理科	自然と人間	生徒の考えた実験計画にアドバイスをする。
16	金	栄小	2	音楽	いい音を見つけよう	グループ毎の発表を聞いてアドバイスをする。
19	月	男鹿南	1	総合	テーマは後日	パネルディスカッションの講評をする。
19	月	栄小	4	算数	角の大きさの表し方を調べよう	分度器の正しい使い方の確認をする。
20	火	鶴舞小	4	国語	いろいろな意味をもつ言葉	いろいろな意味をもつ言葉について、クイズを出題する。
21	水	鶴舞小	4	国語	いろいろな意味をもつ言葉	いろいろな意味をもつ言葉について、クイズを出題する。
26	月	東大曲	5	理科	流れる水のはたらき	実験（ビデオ）による水のはたらきの資料を提示する。
27	火	栄小	3	算数	かけ算の筆算	筆算の仕方について個人個人にアドバイスをする。
29	木	栄小		生活単元	「クイズたいかいの」のれんしゅうをしよう	クイズに答える。発表のしかたの上手なところ、工夫した方がよいところをアドバイスする。
12 ／ 4	火	栄小		生活単元	なかよしレストランをひらこう	クッキーのレシピ紹介を聞き、感想を話す。
6	木	鶴舞小	1	算数	2学期の復習	理解の早い子どもに対する問題を提示する。
6	木	栄小	2	算数	かけ算はかせになろう	8の段の九九を使ったクイズやゲームを出す。
11	火	栄小	1	国語	カタカナ	カタカナの長音の書き表し方を教える。
11	火	栄小	5	算数	面積の求め方を考えよう	問題の答え合わせと、分からない子へのアドバイスをする。
13	木	鶴舞小	3	理科	明かりをつけよう	豆電球がつくつなぎ方とそうでないつなぎ方の問題提示と解説をする。
13	木	鶴舞小	2	算数	かけ算	発展コースを担当する。（問題づくり、コースに来た子に対する助言）
19	水	栄小	3	理科	明かりをつけよう	乾電池や豆電球を使ったおもちゃの例を示す。
1 ／ 18	金	鶴舞小	6	国語	感動を言葉に	詩を書くときの効果的な表現の紹介や児童の作品へのアドバイスをする。

21	月	男鹿南	1	美術	もう一人の自分	題材と出会う場面で、お面とはどういうものなのかななどを指導する。
21	月	男鹿南	3	保体	体づくり	生徒が考えた体力向上メニューについて助言をする。
21	月	男鹿南	3	保体	体づくり	生徒が考えた体力向上メニューについて助言をする。
22	火	栄小	5	理科	もののとけかた	もののとけ方について興味をもてるような画像などを見せる。
29	火	鶴舞小	1	算数	20よりおおきいかず	数表の規則性を紹介する。
29	火	鶴舞小	4	算数	がい数の表し方	単元のまとめの適用問題の出題をする。
29	火	栄小	4	図工	いろいろ描いてみよう	人物、風景などの描き方をタブレット等で指導する。
29	火	男鹿南	1	数学	平面図形	まとめ、確認のため線対称、点対称を指導する。
30	水	鶴舞小	3	算数	重さをはかろう	自動上皿はかり（1kg）の使い方と目盛りの読み方の解説をする。
30	水	男鹿南	1	数学	平面図形	まとめ、確認のため線対称、点対称を指導する。
30	水	栄小	6	理科	電流のはたらき	電磁石のはたらきを大きくする学習の導入を行う。
31	木	男鹿南	1	数学	平面図形	まとめ、確認のための線対称、点対称の指導をする。
31	木	六郷東根	1	国語	わたしは、なんでしょう	子どものクイズを聞き、発表の仕方について助言する。
31	木	栄小	6	算数	変わり方を調べよう	導入として伴って変わる2つの量を実生活の場面から考えるためのアドバイスや支援を行う。
31	木	鶴舞小	5	図工	水さい絵の具を使って塗ろう	色の混ぜ方、塗り方の指導をする。
31	木	鶴舞小	4	算数	がい数の表し方	単元のまとめの問題を出題する。
2 ／ 5	火	東大曲	6	算数	算数のまとめ	面積や体積の補充・発展問題の提示と解説をする。
5	火	鶴舞小	5	図工	水さい絵の具を使ってぬろう	色の混ぜ方、塗り方について助言する。
6	水	栄小	2	学活	カゼをひかない元気な子	カゼに関するクイズの出題をする。
7	木	東大曲	6	算数	算数のまとめ	単位量あたりの大きさ（割合）の補充・発展問題の提示と解説をする。
7	木	栄小	5	算数	比べ方を考えよう	コース別の1つのコースを受け持つ。
7	木	栄小	5	社会	私たちのくらす国土 日本の周りは？	グーグルアースで日本の端を提示する。
19	火	鶴舞小	1	図工	ギャラリー	作品の見方を学んだり、いろいろな作品を見て楽しんだりする。

19	火	六郷東根	5	国語	どんなとき、だれに	子どもたちが書いたメッセージに対するアドバイスをを行う。
19	火	鶴舞小	2	算数	2年のまとめ	児童のつまずきが見られる単元の復習指導を行う。
20	水	十和田小	3	算数	やってみよう	まほうじんの説明と問題提示をする。
20	水	鶴舞小	6	体育	マット運動	練習方法や技のこつを指導する。
20	水	東大曲	5	社会	環境を守る	環境破壊が進む地域の様子などの映像を提示し、問いかけをする。
21	木	東大曲	6	算数	算数のまとめ	比や比例の補充・発展問題の提示と解説をする。
21	木	栄小	3	音楽	音をきき合って合わせよう（あの雲のように）	柔らかく伸び伸びした声で歌うためのアドバイスをを行う。
21	木	鶴舞小	4	国語	カンジーはかせの漢字しりとり	漢字しりとりのお題をする。
22	金	十和田小	3	理科	じしゃくにつけよう	磁石を使ったおもちゃについての講評をする。
22	金	山田小	3	国語	たから物をさがしに	子どもたちが書いた物語の発表会を聞いてアドバイスをを行う。
22	金	鶴舞小	4	国語	カンジーはかせの漢字しりとり	漢字しりとりのお題をする。
29	金	男鹿南	1	英語	PROGRAM 9 Yuki Talks about Kanzi	チンパンジーについての追加情報を簡単な英語で説明する。
29	金	男鹿南	1	英語	PROGRAM 9 Yuki Talks about Kanzi	チンパンジーについての追加情報を簡単な英語で説明する。
29	金	鶴舞小	3	算数	3年生の総仕上げ	コースの一つを担当して支援する。
29	金	男鹿南	1	英語	PROGRAM 9 Yuki Talks about Kanzi	チンパンジーについての追加情報を簡単な英語で説明する。
29	金	男鹿南	2	国語	立場を決めて話し合おう	生徒のディベートについて講評する。

② 交流・共同学習

月	学校名	交流、共同学習の内容
6月	鶴舞小1年栄小1年 十和田小1年	1年生活科「学校紹介」でお互いの学校を紹介し合う。
	栄小 東大曲小	6月6日 栄小の指導主事訪問（国語 10:35～12:10） の配信，メール等での感想交換 6月19日 東大曲小の授業研究会（算数 13:55～14:40） の受信，メール等での感想交換
	東大曲小 栄小	双方で，計画訪問の授業を参観する。 6月6日は，栄小学校の2年生と4年生の国語の授業。 （10時35分～12時10分） 6月19日は，東大曲小学校の6年生の算数の授業。 （13時55分～14時40分）

	男鹿南 3 年 東雲中 3 年	3 年生の学年交流。内容は総合体育大会に向けて、互いに決意表明したり、エールを交換したりする。男鹿南中から東雲中 3 年主任に連絡をとり、2 校間で決めていく。
7 月	山田小 六郷東根小	6 年国語 コミュニケーション能力を高める
	東大曲 栄小学校	国語科「本は友達」・・・読書紹介をし合う 7 月 1 9 日（木）の予定
9 月	鶴舞小 2 年 十和田小 2 年	国語科「あったらいいなこんなもの」の合同発表会を行う。 （1 9 日希望）
	鶴舞小 2 年 東大曲小 2 年	国語科「あったらいいなこんなもの」の合同発表会を行う。
	東大曲 鶴舞小学校	国語科「あったらいいな こんなもの」の合同発表会を行う。 発表会を開き、お互いの意見を交流し合う。 9 月 2 0 日（木）1 0：4 0～1 1：2 5
	東大曲 栄小学校	○東大曲小では 9 月 1 3 日に指導主事訪問がある。 4 年国語科研究授業（1 3：5 5～1 4：4 0）を栄小学校に送信。研究協議会（1 5：3 0～1 6：4 0）も送信。 ○栄小では 9 月 1 9 日に、5 年社会科研究授業が行われる。その様子（受信した）を V T R に録画し、後日の研修日に見ることになっている。（メールで感想を交換する）
	栄小 東大曲小学校	○双方で、計画訪問の授業を参観する。 9 月 1 3 日は、東大曲小学校の 4 年生の国語の授業。 （1 3 時 5 5 分～1 4 時 4 0 分） ○9 月 1 9 日は、栄小学校の 5 年生の社会の授業。 （1 3 時 4 5 分～1 4 時 3 0 分）
1 0 月	鶴舞小 十和田小 栄小	公開研究会の授業の様子を見てもらう。（1，3，6 年国語，2，4，5 年算数の中のいずれか）
	鶴舞小 栄小	学級活動（係活動）の見直し～他校の活動を聞いて参考に する。（期日未定）
1 1 月	鶴舞小 十和田小	国語科「本とともにだちになろう」「ずうっと、ずっとだい すきだよ」 今まで読んだ本の中で好きな本を紹介する。
	栄小 東大曲小	本校の国語科指導主事訪問（授業は、1 年生と 6 年生）の 授業・研究会の様子を配信し視聴してもらうとともに、都 合がつけば研究会に参加してもらう。
	東大曲 栄小	栄小学校の国語科計画訪問の研究授業を職員が参観する。 研究協議にも参加。
	栄小 鶴舞小	5 年理科「流れる水のはたらき」の単元で、下流と上流の 様子をそれぞれ調査し、情報交換をする。
	山田小，鶴舞小 栄小，東大曲小 六郷東根小	社会「1 5 年も続いた戦争」地域の方による「花岡事件」 の講話
	六郷東根小，山田小	1 1 月 2 7 日指導主事訪問の授業（算数）を送信。協議会 も送信して参加してもらう。

1 2 月	東大曲小 十和田小	これまで頑張って取り組んできたことを発表し合い、感想を述べるなど、コミュニケーションを図る。（特別支援学級の交流）
2 月	東大曲 1 年 栄小 1 年	顔合わせ（自己紹介） 10:00～10:15 国語「わたしはなんでしょう」問題を互いに出し合う 10:45～11:20 出題・質問・応答のやりとりをしてクイズを楽しむ。
	栄小 東大曲小	体育の時間などを利用して、お互いに縄跳びの技を披露したり、長く跳び続ける競争をする。5年生を予定。
	栄小 六郷東根小	体育の時間などを利用して、お互いに縄跳びの技を披露したり、長く跳び続ける競争をする。6年生を予定。

③ 教科指導や学級経営，生徒指導上の諸問題などの相談

月 ／ 日	曜	学校	分野	相 談 内 容
6 ／ 4	月	男鹿南	特別支援	ADHDやLD・アスペルガー症候群等の生徒の対応について
15	金	東大曲小	特別支援	教科書にある学習指導よりもっと実生活に密着した体験重視のカリキュラムを考えている。学習意欲を継続させ、学ぶ楽しみが体感できる教科指導（算数）について
27	水	湯沢南	技術	7月中旬に行われる研究会に向けて
7 ／ 18	水	東大曲	特別支援	自閉症（軽度）児に対する支援の仕方 ・こだわりに対する支援はどうあればよいか。 ・コミュニケーション能力（言葉の広がり）を向上させるための効果的な支援について。
20	金	六郷東根	体育	体育実技指導研修会（全職員） ・実技指導のポイント ・10月の計画訪問に向けて（少人数における指導の在り方等）
20	金	山田小	図工	クロッキー実技研修 クロッキーの描かせ方について
8 ／ 1	水	鶴舞小	国語	6年国語科教材「海の命」における言葉を大切にする学習の在り方
21	火	十和田小	算数	立体を調べようの指導案の検討と助言
21	火	鶴舞小	図工	2年の図工科の授業を行う上でのポイント，単元計画作成上のポイント等について
22	水	鶴舞小	国語	1年国語科教材「大きなかぶ」の教材解釈と発問の研究
22	水	鶴舞小	算数	4年算数科「小数」及び「わり算の筆算（2）」の学習指導案の相談
22	水	十和田小	理科	水溶液の性質とはたらきの指導案の検討と助言
22	水	十和田小	理科	明かりをつけようの指導案の検討と助言

28	火	十和田小	算数	たしざんの指導案の検討と助言
9 ／ 7	金	鶴舞小	算数	5年算数科「小数のわり算」の学習指導案の相談
11	火	山田小	生徒指導	児童虐待 ・虐待の見極め方（子どもの様子，タイプ等） ・親子関係（支援の手だて，方向性）
11	火	十和田小	算数	10月からかけ算（1）かけ算（2）に入る。 これまでの実践での有効な活用法を紹介していただく。
21	金	湯沢南	数学	平行と合同 指導案検討会で指導していただく。
10 ／ 3	水	鶴舞小	総合	地球温暖化や酸性雨について調べている子どもたちの状況や疑問に対してどのような支援，準備が必要かを助言する。
3	水	鶴舞小	社会	3年社会科「めざせ！買い物上手」の学習指導案の相談
12	金	湯沢南	社会	中高学習指導研究協議会での授業の流れについての検討（相談）
30	火	湯沢南	保健体育	器械運動（マット，跳び箱）における指導法について
30	火	東雲中	国語	東北・全国大会の発表を聞いて，助言する。
31	水	男鹿南	音楽	リコーダーの授業についての指導案を検討する。
11 ／ 6	火	東雲中	国語	説明的文章の指導について，授業を見て，助言する。
12	月	栄小	国・算	国語や算数で学習したことを深く定着させるための指導法の工夫について（主として，ノートづくりや自学の仕方）
12 ／ 11	火	湯沢南	保体	器械運動の指導方法について

平成19年度 第2回インターネットTV授業研究委員名簿

所 属	職 名	氏 名	備考
秋田県総合教育センター教科研修班	主幹（兼）班長	佐藤 章和	委員長
秋田県教育庁義務教育課	指導主事	千田 寿彦	委員
鹿角市立十和田小学校	教諭	橋本 徹	委員
大館市立山田小学校	教諭	高橋美和子	委員
由利本荘市立鶴舞小学校	教諭	菊地 新吾	委員
大仙市立東大曲小学校	教頭	岩田 稔	委員
横手市立栄小学校	教諭	大石 照彦	委員
美郷町立六郷東根小学校	教諭	深谷 ゆき	委員
能代市立東雲中学校	教諭	佐藤 達治	委員
男鹿市立男鹿南中学校	教諭	小玉 和彦	委員
湯沢市立湯沢南中学校	教諭	阿部 広美	委員
秋田リコー株式会社MA第一営業部官庁グループ	係長	嶋宮 仁美	委員
秋田県総合教育センター総務班	主事	渡辺 岳志	事務局
秋田県総合教育センター研究・情報教育班	指導主事	小山 昌岐	事務局
秋田県総合教育センター教科研修班	指導主事	伊藤 互	事務局
秋田県総合教育センター教科研修班	指導主事	大塚 久隆	事務局
秋田県総合教育センター教科研修班	研修員	桒田 敦司	事務局
秋田県総合教育センター教科研修班	研修員	小宅 淳	事務局